

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-16

和仏法律学校講義録

竹井, 耕一郎 / 田代, 律雄 / 鶴, 文一郎 / 梅, 謙次郎 / 岡
田, 朝太郎 / 秋山, 雅之介 / 田中, 達

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

6

(号 / Number)

高等科

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

58

(発行年 / Year)

1903-03-27

○ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

(明治三十六年十一月四日第三種郵便料金可
十一月十五日十六日廿六日廿八日廿九日三十日
十二月一日廿二日廿三日廿四日廿五日廿六日廿七日
廿八日廿九日三十日)

明治三十六年三月二十七日發行

三十六年度 高等科ノ六

和佛法律學校講義錄

號參拾八章



和佛法律學校

高等科第六號目次

- 憲法ノ性質ニ關スル推問並ニ講演.....法學士 竹井耕一郎
○物權ノ派同ニ關スル推問.....法學士 田代律雄
○占有權ニ付テノ推問.....法學士 田代律雄
○親族ノ範圍、戸主及ヒ家ニ關スル推問.....法學學士 鶴丈一郎
○意思表示ニ付フノ推問.....法學博士 梅謙次郎
○留置權ニ付フノ講演.....法學博士 梅謙次郎
○犯罪ノ定義ニ付フノ講演.....法學博士 岡田朝太郎
○犯罪人引渡ニ關スル推問.....法學士 秋山雅之介
○服馬法（台四九頁至六〇頁）.....法學博士 田中通

報 告

○最近判例要旨叢報○書化講師ノ講更



090
1903
4-6

憲法ノ性質ニ關スル推問並ニ講演

講師 竹井耕一郎

本日ハ憲法ノ性質ニ付テ研究セシ本問題ヲ研究スルニ際シ之ヲ數問題
分析シ順々述ヒテ論セント欲ス先フ第一ニ法トハ何ソ之ニ付フヘオ一ニ
ニ氏ハ法上ハ主權者ノ命令ナリト曰ヘリ此說ハ適當ナリヤ否ナ
講師 此定義ニ據ヒテ法ハ主權者カ命令スル事無ナリアリヘカラ不異シテ然
ナリキヲ言明セサルハ不完全ナリ
生徒 憲法ハ權力關係タズモトニ要セス故憲法無制裁又附五ノルト上法其モト
ハ別箇合モナガニシテ當大ニ差ヘ居ルヘ捕執マ制ナセリセリセリ

講師 右ノ答ニ付キ一言注意スヘキハ法ニハ制裁ヲ附セナルコトヲ得ム必
ス強制シ得ヘキモノナラナルヘカラス故ニ嚴格ニ言ヘバ今古ニ於ケル國際
法ノ如キハ未タ十分ニ法ノ性質ヲ備ヘナルモノト謂フヘシ

講師 獨逸ノ或學者ノ如キハ法規トハ其道事件ノ規則ニシテ處分ト異ニ一事件

ノ規定ナリヤ曰ヘリ此說適當ナリヤ否ヤ

生徒 法規ト處分トノ事件ノ多少ヲ以テ區分スルニ其要ヲ得ルモノト謂ハ

タルヘカラス何トナレハニ事件ニ對シテモ主權者ハ命令ヲ以テ法規タルニ
於テ差支ナケレバナリシイ端ニ當ニシテ是ハ獨逸ノ學者ニ付シテ「...」
講師 「...」ハ法規トハ事實ヲ假定シテ法ノ結果ヲ結論クムヲ謂ヒ處

分トハ事實其モノヲ惹起スヲ謂フト論セリ此說ハ如何

生徒 此說モ亦採ルニ足ラス事實其モノヲ惹起ス時亦法規下云上得ルノ道

理ナケレナリ

講師 「...」法規トハ人民ノ權利義務ヲ規定シ處分トハ其法規ノ範圍内
ニ於ケル國權ノ作用ヲ謂フト曰ヘリ此說ハ如何

生徒 七此說ニ依ビ一國家行動ノ準則ヲ定めタムオハ法規ト謂又而ト又得ム
ルニ至リ彼キニ失ケルノ據アリト謂カサゲハカラス誠當ヘ

講師 右ノ學說ニ於ケル法規及處分を區別シ我國法者所謂法律命令及處
分ノ區別トハ必スシモ一致也サルコトヲ注意ス

講師 五第二ノ問題トシテ法ニ不文法アリカ否キ又問題ヲ決定セシニ此問題ニ
對スル學說次ノ如シ「...」

(4) 公法ニハ不文法ナシトノ說

（中）公法私法ヲ通シテ不文法ナシトノ說

第一說ハ獨逸學者ノ一派ノ採ル所ノ說ニシテ公法中不文法ヲ認ムレハ國家
ノ性質ニ矛盾ス何トナレハ法ハ國民ノ意思ナリ而シテ成文法ハ國民ノ意
思カ國家ノ機關ニ依リテ間接ニ發表セラレタムモノニシテ不文法ハ直接ニ發
表セラレタルモノナリ故ニ公法中ニ不文法アリセバ國民ノ意思カ國家ノ
機關ニ依ラスシテ發表セラルニ至リ國家ノ性質ト相矛盾スルモノナリト
云フニ在リ此說明ハ適當ナリキ否キ謂頭ハ先づ獨逸學者ニ此問題大も小も云々

生徒・探ルニ足ラス何トナレハ歐羅巴諸國ハ多ク國民即チ國家ナリト云フノ
體柄ナリ故ニ不文法ヲ認ムルモ國家ノ性質ト毫モ相反セヌ何故ニ國民ヲ國
家ナリト謂フカ蓋シ一體ノ實權ハ君主ニモ又其他ノ機關ニモ屬セス畢竟國
民ニ歸屬スルト觀ツルヘカラサレハナリ此ソ如ク公法中ニ不文法ヲ認メオ
ルノ説探ルニ足ラサルノミナラス苟モ主權者ノ命令ナル以上ハ成文ト不文
トヲ問ハス法タルニ妨ナキモノト謂ハサルヘカラス此説ヲ採ル以上ハ公法
並ニ私法ノ範圍ニ於テ不文法ヲ認メサルノ説モ亦根底ニ於テ既ニ倒レタレ
ハ別ニ説明ヲ要セサム

講師 第三ノ問題トシテ公法私法ノ區別アリヤ否ヤ問ハシ此問題ニ付ナハ
學說種種アリ或ハ法ハ私ノ性質ヲ有セス總テ公法ナリト曰ヒ或ハ又佛國ノ
學者中ニハ全ク右ノ反對ニ出ナテ法ハ人民ノ權利義務ニ付テ規定セルモノ
ナレハ總テ私法ナリト曰ヘル者アリ然レドモ元來公法私法ノ區別ハ學者カ
法ノ研究ニ關シ便宜ノ爲メニ設タルモノナルカ故ニ適當ノ標準ニ據リ法ヲ
分チ一部ヲ公法一部ヲ私法ト看做スハ必スシモ不可ナラストス而シテ今公

法私法ノ區別ヲ爲ストセハ其區別ノ標準如何ニ付ナハ左ノ學說アリ即チ
其第一説ハ公法ハ公益ノ法ニシテ私法ハ私益ノ法ナリトノ説ナリ此法ハ羅
馬ノ「ウルビア」ノ唱フル所ニシテ廣々行ハレタル説ナリ其當否如何
生徒 此説ハ公益私益ノ區別判明セサルヲ以テ區別ノ標準ト爲スコト能ハス
計是ニ於テカ或ハ直接ニ公益ヲ保護スルモノヲ公法トシ直接ニ私益ヲ保護ス
ルモノヲ私法ト曰フ者アルモ直接間接ノ區別モ亦明確ナラサルヲ以テ探ル
計ニ足ラサルナリ
講師 然ラハ權力關係ヲ規定セル法ハ公法ニシテ權利關係ヲ規定セル法ハ私
法ナリトノ説ハ如何
生徒 権力關係ヲ規定セル法ニシテ私法トシテ存スル場合アリ故ニ此説ハ事
實ニ適セツルモノナリ
講師 予モ亦此説ハ不都合ナル結果ヲ生スルヲ免レント信ヌ蓋シ此説ニ依レ
以テ國家統治ノ作用ニテモ權力ノ行使ニ屬セサルモノハ私法關係ト謂ハサル
ヘカラス又全ク個人的ノ關係ニテモ權力ノ行使ニ屬スルトキハ公法ノ範圍

ニ属スルコトト爲ルベシ但此ノ如キ説い未タ適當ラスイチハ公法トハ國法
以上ノ法ノ性質ヨリ區別セントスメソ説ナリ次ニ法律上ノ主體ニ據リテ區別
セントスルノ學說アリ其第一説ハ曰ク公法トハ人ノ公ノ資格ニ於ケル規定ニ
シテ私法トハ人ノ私ノ資格ニ於ケル規定ナリト此説ニ從フトキハ先ツ公格私
格ノ區別ヲ判明セサシカラス然ルニ此區別ハ甚ダ困難ナリト信ス例ハ國
家カ公債ヲ募集スル作用ノ如キハ國家ノ公格ニ於テ爲スモノナルカ私格ニ於
テ爲スモノナルカ學者間ニ異論ナキニ未能ハス。照此觀之、其蓋シテ之者ハ謂
第二説ハ公法トハ治者、被治者ノ關係ヲ規定スル法ニシテ私法トハ被治者間ノ
關係ヲ規定スル法カリト云ノソ説ナリ此説ニ對シテハ批難ノ聲盛ナガモ全タ
價值ナキ定義ト爲スコトヲ得ス或者ハ此説ニ依ヒハ國家ト人民トノ關係ヲ總
ナ公法關係ナリト云フノ説ト爲テ疑昧ヲ免ビシト曰フト雖モ治者、被治者ノ關
係ト云フハ國家カ統治者トシテ行動スル場合ヲ謂フモノニシテ公法ノ内容ハ
全タ此ニ存ニ故ニ其觀念ハ甚ダ可ナリ謂ヌオルカラス。然レハ出張ノ事
第三説ハ公法トハ社會カ一塊トシテノ活動ニ關スル法ニシテ私法上ハ社會大

各分子トジテ活動ニ關スル法ナリドノ説ナリ此説ノ缺點ハ社會が一團單位
トシテ活動スルハ多ク公法上ノ活動ニ屬ス云ヒ得ヘキモ總テ然リト謂フコ
ト能ハナガニ在リ例ハ、國家カ普通ノ契約ヲ爲ス場合モ亦曰クトシテノ作用
ナリト云ヒ得ニゲレバナリ合ハシ論文

第四説ハ公法トハ國家ト國家又ハ公法人並一私人トノ關係ニシテ普通私
人間ニ起シ得サル關係ヲ謂ヒ私法トハ之ニ度共ルモノヲ謂ラト論ス此説ニ付
テハ第一ニ國家ト國家トノ關係即テ國際法及國内法ト一所ニ論スルハ不穩當
ナラ蓋シ國際公法ナルモノハ名稱ニ於テハ公法トフト雖モ所謂國內公法ト
ハ全タ其性質更異ニ及ビカリ又普通ニ私人間ニ起シ得ナル關係不云果以テ
如何ナルモノナリヤ甚タ不明ニシ矣之ヲ以テ區別其標準則爲ス國ト能ハナル
サクナムベシハシハ前マニ日本ノ國家財産ニ基底ニシテ國庫充實ニ國債ニ基底
子並左様類々定義スベシト由是其餘諸附ノ裏風々賦稅等項ナムセシヘリト尙本
日公法トハ統治權ヲ本體及セ其作用ニ關國財規定ヲ全體ヲ謂ヒ私法較少茲固
獨反毛ル者ヲ謂フ公法ナリト開コ處ハ愚哉文ミト曰コ學道闇闊大々シテ今

訴訟法ニ付テハ或ニ公法ナリト謂ヒ或ニ私法ナリト曰ヒ學說區區ナリシモ今日於テハ公法ナリトノ說多數力取トス何故ニ公法ナリトヤ曰ク訴訟法ハ裁判手續ヲ規定セバモノニシテ則チ統治權ノ運用ヲ規定セルモノナレハナリ尙ホ總ニキルヘンハイムハ論シテ曰ク國家統治ノ事務ニシテ私法上ノ關係ト相似タルモノアリト雖モ之ヲ綜合シテ觀察スルトキハ其公法關係ニ屬スベキコトヲ知ルヘシト此論ハ國家事務ノ中ニ於テ公法關係ニ屬スルモノト私法關係ニ屬スルモノト區別スル一標準ト爲スコトヲ得シシテ千歳の國體固内公法上大ニ憲法ノ國法上ノ位置ヲ説明シテ以テ本題ヲ結スヘシ

憲法ハ公法ノ一部ナリトハ今日多數ノ說ナリ其中ニ在リテ「ラバンド」一派ハ所

謂行政法ヲ認メス憲法ト國法トベ同一ナリト論ス其他一般ノ學者ハ公法中ニ

ハ憲法行政法刑法訴訟法ヲ含ムト論ス

憲法ノ定義ニ付テモ其說區區タリ既く或殊セ種々觀念ヲ表す者也

第一說 憲法トハ國家ノ直接機關ニ關スル規定ナリ

謂行政機關ヲ指シテ直接機關ナリ

此說ハ大體國家ノ成立ニ缺クベカラナム機關ア直接機關トシ其他ノ機關ア

間接機關トシ我國法ニ於テハ天皇ト議會トカ直接機關ナリト爲ス

第二說 統治者ノ定メタル最高ノ政令ナリ

第三說 憲法トハ憲法法典ナリ

第四說 憲法トハ統治者カ直接ニ制定シ其改正ヲ爲スニ會議ノ協賛フ經ヘキ

ト論ル予ハ次ノ如ク定義ヲ下ス「以テ最ミ適當ナリト信ス

憲法トハ國權ノ本體及ヒ運用ノ綱領ヲ規定シタルモノナリ

此ノ如ク成ハ形式上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ實質上ヨリ觀察シテ定義ヲ

ト論ル予ハ次ノ如ク定義ヲ下ス「以テ最ミ適當ナリト信ス

憲法トハ國權ノ本體及ヒ運用ノ綱領ヲ規定シタルモノナリ

此ノ如ク成ハ形式上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ實質上ヨリ觀察シテ定義ヲ

ト論ル予ハ次ノ如ク定義ヲ下ス「以テ最ミ適當ナリト信ス

此ノ如ク成ハ形式上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ實質上ヨリ觀察シテ定義ヲ

ト論ル予ハ次ノ如ク定義ヲ下ス「以テ最ミ適當ナリト信ス

此ノ如ク成ハ形式上ヨリ觀察シテ定義ヲ下シ或ハ實質上ヨリ觀察シテ定義ヲ

ト論ル予ハ次ノ如ク定義ヲ下ス「以テ最ミ適當ナリト信ス

原則法タル後法へ個別外法タル前法ヲ廢止セス
後法ノ國籍ノ外國法ニ取附く問題ト異宝ク矣。モ
Lex posterior generalis non derogat legi priori speciali.

此、或々愈々廣大土上より遷移シテ其勢可ヒ故ハ實質上にて原法モ變遷モ空洞人
失念セリ
私法獨立。然雖イハ諸法皆之類似ニ同宗也其過五十年ニニ會通。相處モ無ヘテ
第三條 異動イハ遷移必與セキ

第四條 諸法皆之家入人又ハ財產高々資本ナリ
第五條 諸法對開イハ異國學士院又ハ天皇ノ御食イハ直封處置セリ

物權ノ混同ニ關スル推問

久松義宣

士官学校卒業後、外國人として在留、實業家として貿易業者、後は法學士、田畠代、雄

講師、法定看護家督相續人として、實業家として、實業家として、實業家として、實業家として、
甲生徒、現実的、何等ノ利益ヲ有セス隨テ權利ヲ有スルヤ
乙生徒、權利ヲ有ス
講師「權利トスレハ相續開始前ニ拵棄スルコトヲ得ルカ如シ然ルニ法定家督
相續人ハ拵棄スルコト能ハズ然テハ之ヲ以テ權利未附コトヲ得テ然カ如
シ如何致、法定家督相續人として、實業家として、實業家として、實業家として、實業家として、
生徒、民法上ノ權利ハ拵棄不許コトヲ得ルノ原則トスルモ總テノ權利ハ之ヲ
拵棄スルコトヲ得ルモノニ非ス親權ノ如キ是ナリ法定看護家督相續人ノ權
利モ亦此拵棄不許コトヲ得サル權利ニ屬スルナリ

講師 犯權失據棄ヌコト界得失所根據如何

アリ

生徒 明文アリヤ得ル事ニシテ其本據跡ハ被子墨文リ若當是款者則人ヘ

講師 民法上ノ權利ニ於て拠棄スルコトア得失ルモノタルニ明文ノ要アト

モ法定ノ推定家督相續人ノ權利ハ拠棄スルコトア得ストノ規定アリナ若

シアリトセバ親權ト同当ニ論外ルコトア得ル事也然ニナレム同母ニ論外ル

者ト男得ナルベシ如何則誠前之拠棄次第ニ才を發シ或破滅然ニ之詳案察

生徒 諸明文ナシ登

講師 既然テ其拠棄シ得ル權利ニ屬スルヤエ時亦ヤ當ナル則當異ギ亦大ハシ

生徒 傷件附權利ナリ財財人ハ財財謂財庫ヘ財庫又財又ナリ

講師 條件附トセハ條件ノ到來スルヤ否ヤハ豫メ之ヲ知ルコトア得ナルモノ

ナラサルヘカラス被相續人ノ死亡スルヤ否ヤ等ハ豫メ之ヲ知ルコトア得ナ

ル事實ナリヤ

生徒 知ルコトア得ル事實ヲ以テ條件トスルコトア得ルカ

講師 知ルコトア得ル事實ヲ以テ條件トスルコトア得ルカ

生徒 知ルコトア得ル事實ヲ以テ條件トスルコトア得ルカ

講師 知ルコトア得ル事實ヲ以テ條件トスルコトア得ルカ

甲生徒 諸誤ル期限附權利ナリヘ

乙生徒 法定メ推定相續人為相續開始ニ因リテ相續人ト爲ル

又キ種々ノ權利

講師 然ラハ期限附法律行爲ニ因ル債權者

又債權者ニ非スニノ期限ノ到来ニ

因リテ債權者タルコトア得ル一種ノ權利ヲ有スルモノト謂ハナルヘカラア

ルヘシ果シテ然ニテ本據跡をハ破滅欲求無念ヘ財庫者財庫人

生徒 法定ノ推定家督相續人ノ權利ハ右ノ如キ權利ニ非ス又單純ナリ希望ニ

モ非スシテ完全ナル權利ナリ唯期限ノ到来ニ因リテ實行スルコトア得ル構
成ヲ有スルノミ

講師 右ノ答大ニ可ナリ然ラハ問ハシ民法第百七十九條ニ「同一物ニ付キ所有

權及ヒ他ノ物權カ同一人ニ歸シタルトキハ其物權ハ消滅ス但其物又ハ其物

權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此限無在ラスト規定ナリ謂ハ甲ナリ

者乙ニ對シテ抵當權ヲ有シ其甲ニ丙カル法定ノ推定家督相續人ノ事例假定

セヨ其場合ニ於テ甲カ抵當物ノ所有權ヲ得タリ然セハ甲ナリ對シテ所有權

金法

物權ノ抵當ニ關ニテ

九三

ト所有權以下ノ物權々同士人ニ離レバアトト爲テ所有權以外之物權則皆
抵當權の消滅スルヲ原則トスルモ然レドモ但書未規定提携達其抵當權分以
モノハ法定ノ推定家督相續人タル者又權利ノ目的タルヲ以テ消滅セリト謂
カナルヘカラナムカ如シ如何ニシテイテハ其時附之當時大抵其時又ハ其時
生徒　然リ第三者タル丙ノ權利目的物ナリ不期ハ未滿ヘ即ツカシムナカ以テ消
滅セス

講師　此ノ如キ場合ニ消滅セヌトセハ子ヲ有スル者ム數箇ノ權利カ其者ニ歸
スルモ殆ト混同ニ因リテ消滅スル場合ナク爲テニ非常ニ複雜ナル關係ヲ生
シ此條文ヲ設ケタルハ却テ不條理ナルカ如シ元來法定ノ推定家督相續人ハ
第三者ト謂フコトヲ得ルモ一時ニ混同セシムトモ亦可也然レバモ一時ニ
甲生徒　當事者以外ノ者ハ總テ第三者ナリ隨テ混同ニ因リテ消滅スル事少ニ
非ス

乙生徒　法定ノ推定家督相續人ハ承繼人ニシテ第三者ニ非ス隨テ第百七十九
条但書ニ該當セサル事ナレハ混同ニ因リテ消滅スルナリ

講師　然ラハ第三者トハ何ゾ

生徒　第三者トハ或目的物二付キ後日ニ至リ利害ノ關係ヲ有スル者ヲ謂フ

講師　占有權ニハ混同ノ規定ヲ適用スルヲ否ヤ否ヤ其時ニ古昔又ハ國又大前既

生徒　適用セス

講師　其理由如何

生徒　理由ハ占有權ノ性質ニ基クモノニシテ若シ占有權モ一ノ物權ナルカ故
ニ混同ニ因リテ消滅ストセハ占有權ハ常ニ多クノ場合ニ於テ其他ノ權利ト併
存スルヲ常トスルヲ以テ若シ占有權モ混同ニ因リテ消滅スルモノトセハ古
有權ノ保護ハ有名無實ト爲ルヲ以テ第百七十九條第三項ニ於テ前二項ノ規
定ハ占有權ニハ之ヲ適用セヌト規定セルナリ

占有權ニ付テノ推問

法學士 田代律雄

講師 受寄者ハ占有權ヲ有スルヤ以テ五百六十枚地主ノ占有權ニ付テ
占有的ナシ何トナレハ占有權ハ要素トシテ第百八十條ニ規定スル體素
ト心素トヲ有セサルヘカラツルニ受寄者ノ場合ニ其心素ヲ欠缺ルモ被
占ト謂ハツルヘカラナレハナリ此處ニベシ然既に古音對ヨリ人體素大體素
講師 心素即チ自己ノ爲ミニスルトハ如何ナル意義ナルカ
生徒 「自己ノ爲ミニスルト」ハ利益ノ觀念ヲ伴ハツルヘカラス而シテ其利益ハ
或法律行爲ノ結果ヨリ生スル利益ニ非ハシツ其物ヲ占有スルニ因リテ直接
ニ受クル所ノ利益ナリトス
講師 心素ヲ以テノ如ク解セハ受寄者ニ占有權アリトスヘキヤ

生徒 物内使用支許承諾又第六百六十六條ノ場合ニ受寄者ニ占有權アルモノ其
利他一般ヲ寄託メ場合ニ受寄者ニ占有權ナシヘ五百六十枚地主ノ占有權ニ付テ
講師 十然リ然テ次モ代理人ハ占有權ヲ有スルヤ
生徒 自己ノ爲ミニスルトメ他人ノ爲ミニスルニ非サ然ノナシテ他人ノ爲
ミニスル者ハ占有權大シ又實ニ付テ古音素ニ視察ニ以テ實質平賀且
代理人ニベ占有權ナシ故ニ代理人ハ常ニ本人ノ爲ミニスルモノナレハ代
講師 下雇傭ノ場合及ヒ請負ノ場合ニハ雇人又ハ請負人ハ占有權ヲ有スルヤ
生徒 履債及ヒ請負ノ場合ニハ單ニ勞力ノミノ供給又爲ニモノナレハ孰無
占有權ヲ有セス

講師 第百八十三條ニ代理人が自己ノ占有物ヲ爾後本人ノ爲ミニ占有スヘキ
主意思ヲ表示シタルトキハ本人ハ之ニ因リテ占有權ヲ取得ストアリ其意義如
何貢圖ミ本大ハ古音對ニ言ハセ
生徒 メ次ル所有權者カ其所有物ヲ自ラ占有シ居テ場合ニ之ヲ乙人ノ爲ミニ爾
後占有スヘキ意思ヲ表示シタルトキハ甲ハ乙人代理人不爲リオ本人ハ爲メ

占有ニシテ占有權アルコト立付キ本人ハ之ニ因リ又占有權ヲ取扱ヌト本規定矣。事故ニ當初ニ別必至シモ代理關係ヲ存スル事ト又要セタル事ノ如ス算シニ付講師　質權ヲ有スル者ハ占有權ヲ有スルカ

生徒　然リ有スル事ナリテハ本人ハ占有權ヲ古事記ニ載候たるにて其意源取講師　此場合ニ占有者ハ占有權アルコト立證スルノ責任ヲ有スルカ

生徒　然リ有スル

講師　占有者カ占有權アルコト立證シタル場合ニ於テ法律ハ如何ナル推定ヲ下スカ、假令又ヨ前段ノ事例人又ヘ隨意人、古事記而述スカ、甲生徒ニ第百八十六條ノ規定ニ依リ占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意平穏且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定スル事既人、當ニ本人ハ認ムニセバヨシムカ、乙生徒自然ラク質權者カ質物ヲ占有スル場合ハ所有ノ意思ヲ有セス隨タ第百八十六條ノ推定ヲ受ガナルモノトス

講師　然ラニ問ハシ質權者カ古有スル場合ニハ第百八十六條ノ推定ヲ下ナス

生徒　理由ヲ明文ニ根據ニシテ將々如何ナル論理ニ根據スルカ

講師　然ラニ問ハシ質權者カ古有スル場合ニハ第百八十六條ノ推定ヲ下ナス

生徒　性質上當然適用ナキモノトス

丙生徒　外本問ノ場合ニ於テハ第百八十五條ヲ適用シ權原ノ性質上占有者ニ所

有ノ意思ナ無ニテシテ第百八十六條ヲ適用セズ

講師　君ハ第百八十五條ノ意ヲ誤解セリ本條ハ古有ノ性質變動スル場合ニシ

ムカ本問ノ場合ニ適用スベキ事項ニ非スナヘシ當事主ハ古事記ニ付主張を論

講師　第百八十六條ノ推定ヲ總て自己ノ爲主張スル意思ヲ以テ物ヲ所持スル

者ニ對シテ下スベシ推定ナレトモ此推定ハ反證ヲ許シタル結果推定ト事實

調査カ異ナカニシテ明白古事記場合義於スハ其事實ニ依リテ確定スベキハ勿論ナ

ムカ本問ノ場合ニ於テハ應ニ此第百八十六條ノ推定ヲ受クヘキ者カ自ラ質權

者ニ對シテ下スベシ推定ナレトモ此推定ハ反證ヲ許シタル結果推定ト事實

ナキモクナタ即チ供述其ノ自體ニ於テ本條ノ適用ヲ受ケナルコト爲ルモ

メ大ア故ニ第百八十六條ノ占有當素ガ意味ヲ深希其性質無マニ立入リテ

モノニ非スレモ唯占有ノ心素ト體素ト又有スル者ハ此種定ヲ受ケムト云フ
 二過キナルナリ第二項モ亦然リトズ、本論ノ趣旨を察シテシイ様ニ
 講師文占有權ノ取得ハ讓受ニ因ル又其權力ア威カスヘ通ニ本據、勝家、才木等の
 生徒本然リアモニ誠モヘ那ニ此種百八十六難、勝家等之等々自ら賣却
 講師此場合ニ於キハ前者及後者大ニ差占存ルカ謂或大ヘテ、然而大
 生徒ニ然リニメ占有存ヌ事大ニモ無此證宗ハ只題、物也、海果斯五ノ事實
 講師占有者オ承繼人ハ自己ニ占有有ムニテ主張スル意願ヲ傳アム、領持人
 生徒本然メ自己ニ占有ノミヲ主張スルコトハ勿論前主ノ占有ノミヲ主張シ或
 無自己ノ占有ト前主ノ占有ト並併セテ主張スル事ト看管變更大ニ關係ニ
 講師前主ヘ惡意ニテ十五年占有ギ後主固自己ヘ五年間善意ニ占有シタル
 内場合ハ其物權が時效ニ因リテ取得不可ガト、蓋即ハ事實上占有者ニ相
 生徒然リ物權未取得スル事ナリ
 講師然ニハ後主即テ現占有者ハ善意人占有ナムニ惡意ノ占有有ナルカ
 生徒善意ノ占有大矣、ナリ

講師前主ノ占有既ニ計五年ヲ經過アル是ソニシテ惡意ノ時效年限ノ四分
 ハ三ヲ超過セリ然後ハ死ル四分メ計不善意ノ占有の場合神ニ二年半ヲ經過
 ハ時效ニ因リ物權ヲ取得不ヘキ無非空ルカ、然ニ善意ノ主ニ更張、能若ニ
 生徒法ハ一定ノ年限ヲ以テ時效期間ト爲スヲ以テ比例的ニ前後ヲ通算スル
 フ許テス、
 講師第百八十七條第一項ニ所謂占有トハ善意ノ占有ヲ指スカ惡意ノ占
 有ヲ指稱スルカ開一ニ果實マ耶、假設大ヘリイテ勝ハムト
 生徒善意惡意トヨニ包含スカ
 講師然ラハ同條第二項ハ無用ノ冗文ナルカ

甲生徒古善意ノミヲ指スカ故ニ第二項ヲ必要トス
 乙生徒古本條ニ所謂占有トハ占有ノ性質ニ深ク立入リヲ規定シタルニ非スシ
 フ唯所謂心素ト體素トヲ有スル占有ヲ意味スルモノト解スヘシ故ニ若シ其
 古有ノ性質カ瑕疵アル場合ニ於キハ其瑕疵モ亦承繼スヘシトシ第二項ヲ要
 スルモノナリ此意味ニ於テ解スルトキハ惡意ノ占有ヲ承繼スル場合ハ必ス
 説法
 占有権ニ付テノ通則

シモ惡意ナルニ非ヌ又法律カ惡意ノ占有者トシテ效力ヲ附與ムルニモ非ヌ
ガテ以テ自己カ善意ニ占有セバ則チ書道ノ占有者タルコトヲ失ハシルモ可
ナリ。但亦善意者無事占有者古事ニ當りテ占有者トシテ失却シルモ可
能即ち占有ノ效力トハ何シヘ古事ニ當リテ立人ミテ賊宝モ失却シル時大
生徒等占有ナル事實ニ法律カ與ヘタル效果ヲ謂フナリ。

講師　果實ヲ取得スルモ占有ノ效力ナムカ。

生徒　然リ占有ノ效力中ターナリ。

講師　占有者ハ總チ同一ニ果實ヲ取得スルコトヲ得ルカ否斯ノリ主張。

生徒　否善意ノ占有者トニ依リ其效力ヲ異ニシキを惡意ヘ占

講師　其效果ハ如何ニ異ナルカ又其理由如何。

生徒　善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得ス是レ占有者ハ自己ニ異
メ權利アルモノト信シ費用スル場合多カルヘキニ後日ニ至リ返還ノ義務ヲ
負ハシムルハ甚ダ勘ナリ又真正ノ權利者ニ於テ自己ノ物ヲ他人ニ放任シ
又利權ヲ行使セサムノ怠慢ヲモ存スルヲ以テナリモ惡意ヘ相應半端ニ過矣

講師　占有物ヲ質貸シタル場合ニ於テ其質借料ハ一種ノ果實ニシテ之ヲ法

定果實ト謂ムト明白ナムモ此果實ベ占有物ヨリ生スルモノニ非シテ質

貸借關係ヨリ生スルモノニシテ占有物ノ果實ト謂フコト能ハナルカ如シ如

生徒　何故ニ此質借料ハ占有物アリテ生スルモノオレハ仍ホ占有物ヨリ生ス

ル果實ト謂フコトヲ得ルモノナリ。

講師　包含セス。

講師　占有物ヲ質貸シタル場合ニハ法定果實ヲ包含セス天然果實ノミヲ指

稱スルモノナリ。

講師　本條ノ「果實」ハ何等ノ制限ナキヲ以テ天然果實ハ勿論法定果實ヲ源包含
スルモノト解スヘキカ如シ而シテ前問質貸借關係ヨリ生スル質借料ニ外ナ
ラスト雖モ此質借料ハ占有物アリテ生スルモノオレハ仍ホ占有物ヨリ生ス
ル果實ト謂フコトヲ得ルモノナリ。

親族ノ謂イ語セイテ親族者ハ文

夫妻子孫父祖母等也而亦謂之親族者謂之親族者也其妻夫子孫等也

親族本來ノ謂之親族者謂之親族者也法律學士吳鶴　吳鶴丈　吳一賓　吳

講師　親族ト何シヤ親族果實中ノ親族果實ニ居合者ハ天無果實ニシテ居

生徒　六親等内ノ血族、三親等内ノ姻族及ヒ配偶者ヲ謂フ

講師　血族トハ何シヤハシタニ山林等ハ渠等内ノ渠等ハせぬ矣然ニ成

生徒　同一ノ祖先ヨリ出テタル者ヲ謂フ古沐源流坐大本か人ニ接スルを貴

講師　六親等以外ノ血族ハ親族ニ非スヤ其渠等内ノ渠等ハ一解ハ渠等ニシテ貴

生徒　民法上親族關係ナシ

講師　姻族トハ何シヤ果實中ニハ渠等果實ト同合スル子

生徒　配偶者ハ一方ノ血族ヲ謂フ古沐源流坐大本か人ニ接スルを貴

講師　妻ノ兄弟ハ何親等ノ姻族ナル者也既乎入可木屋ノ其渠等ハ渠人ニ接

生徒　二親等内姻族ナル者也既乎入可木屋ノ其渠等ハ渠人ニ接

講師　妻ノ兄弟姊妹ノ配偶者ハ如何

生徒　姻族ナリト信スマサク渠等果實中ニハ渠等果實ト同合スル者ニ接

講師　然ラハ其渠等ハ如何ニ計算スルカ夫婦同居ニ親合スル時此等ノ配偶

生徒　民法第七百二十六條ニ依ルノ如クノ如クノ如クノ如クノ如クノ如クノ

講師　然レトモ妻ノ兄弟姊妹ノ配偶者ハ通例妻ト同始祖ヨリ出テナムモノナ

レバナリテハセシモ夫婦同居ニ親合スル時此等ノ配偶者ハ渠等果實中ニ接

講師　然ラハ其渠等ハ如何ニ計算スルカ夫婦同居ニ親合スル時此等ノ配偶

生徒　然ラハ其渠等ハ如何ニ計算スルカ夫婦同居ニ親合スル時此等ノ配偶

講師　妻ノ兄弟姊妹ノ配偶者ハ親族關係ナシ何故ナレハ渠等ノ配偶者ノ一方

講師　配偶者ノ何シヤハ渠等ノ配偶者ノ一方

生徒 婚姻の因リが生シタル夫婦ノ雙方ヲ謂フ

講師 然ラニ夫婦ノ間ハ姻族關係ニ非ニヤ猶大等ノ聖書に於て既テ有之

生徒 否何前夫婦ニ配偶者間ニ其親等ノ計算ヲ爲スゾ得失減六事勿殺ノ「一次

講師 然ラス夫婦ハ婚姻ヨリ生スル親族ナルモ法律ニ所謂姻族ハ夫婦ノ一方ト他ノ一方ハ血族トノ間に於ケル親族關係ヲ指スヲ以テ夫婦ハ姻族中ニ包含セサルナリ妻ハ既婚者妻ハ既婚者ハ既婚妻モ同體而リ也出走女也夫也

講師 婚族又三親等ニ限リテ親別ト爲シタル理由如何

生徒 血族ト姻族トノ親親ノ差別アリ故ニ實際ニ適合セシメンカ爲メニ三親等内ニ定メタルナリ

講師 豊事ハ親親及ヒ其血族トノ間ハ關係如何再び妻ハ既婚者妻ハ既婚者

生徒 血族間同様ノ關係ナキ

講師 登タ同一ノ關係ナリヤ

生徒 無ナ故ニ被殺ハ婦皆ハ死因

講師 婚姻ヲ爲ス時付テ異ナル所ナキヤ

生徒 然ニ異ナル所ナキヘ、其雖ハ既婚者由リ其妻ハ夫也亦然者父又ハ實母

講師 父繼父母トハ何ニ似テ夫妻之妻者ハ繼父又ハ實母

生徒 異實父母ノ一方ノ爲成母更ニ配偶者ト爲メ己ト家ヲ同シタル者ヲ謂フ

講師 因何故ニ家ヲ同シタル者ニ夫妻ノ實母又ハ其家ニ連続シ苦々殊父ニ付テ來

生徒 中答フ者ナシハ、夫夫ノ非夫夫ノ母子母子ハ繼父實母ハ繼母

講師 又如何ナル者ヲ繼父母ト爲シ如何ナ者ヲ繼子ト爲スガハ法律宣明示テ

キヲ以テ疑義ナ生スルヲ免レバテ雖ホ繼父母トハ實父母養父母同シニ繼本

父母之地位ニ立テ以テ此名稱アル所以ニシテ實父母養父母同シノ配偶者

ヲ指スヤ明カニシテ實父母又離レテ繼父母カルモノアルヘカラス然リト雖

キ實父母ノ配偶者ハ總ク之ヲ繼父母ト謂フヘカラス何事ナシニ實父母ノ配偶

偶者ヲ以テ實父母ト同視シ又配偶者ノ子ヲ以テ實子ト同視スル所以ノ殊ノ

ハ元亦未カノ觀念未遂之也アニシテ其家ヲ同シタル同一家族タルノ關係

ヲ生シ體え親子又等既婚者アルガ爲スニシテ其家ヲ異ニシ同一家族タル

ノ關係ナキテ於テ相互通親子ニ等シキ情義モ亦存スルヨド夫ケレハ親

子ノ關係者ヲ生家又ハ味至理由者ニ又當必要者有カ然亦大失故ニ例ヘテ實母カ繼母者ト所實父死亡時開又他家無再嫁シ夫既死未娶他家同於然然實母ノ配偶者ハ繼母非也又實父之其家更染リ而家を入支開婚姻然爲或又則別居亦他家ニ於夫所實父ノ配偶者即繼母セ非也ル實父ヲ廢ル容然可也モ實父母離乎タルニ必シモ現セ難ヒ同シ度スル又要セ乃繼子カ其家ア出ヌ他家入リタルカ爲タ直モは繼親子ノ關係情滅スルキニ非ス又家ヲ開シテ後之爲後常ニ繼親子ノ關係ナリト謂不可カズ例ヘテ實父死リテ子ノ相繼ナ爲シタ必後實母カ家ニ在ル實父ノ弟那チ叔父ト相繼而死ル場合ノ如キ某叔父或繼父ト謂フ解カズト何トカレハ此場合ニ於テ既叔父ハ元來實母ノ配偶者ナシ又其家キ入ルヘキモノニ非ス偶其家ニ在リタルカ爲メ實母ハ婚姻相続申因済其家去リヌシテ依然配偶者と共に其家ニ在ルモ若シ叔父ニシテ家少テ異居者ナシ於夫ニ其婚姻ノ性質上實母就其家ヲ毒メ則夫タク叔父之家セ浦入ル解説母ノ夫所又以テナリ之ヲ要スルニ繼父母ノ關係ヲ生スル爲ミニハ必實父死ム實母亦死亡又ハ其他ノ原因ニ由リ其家ヲ去リタル後實父又ハ實母

配偶者トシテ其家ニ入りオル者ナラサルヘカラスト信ス
講師 繩母及ヒ庶子ナシ何ソヤ

生徒 父ヲ認知シタル私生子ハ庶子ニシテ庶子ヨリ其實母ニ非ナル父ノ配偶者ヲ指シテ嫡母ト謂フ

講師 民法第七百二十八條ノ規定ナシト所納母ナ庶子ヨリ關係如何

生徒 番族關係ナリ十一款莫ロ第百三十小款等ノ對外者小對外者標示

講師 大嫡母ト庶子ナノ關係ハ父ノ認知シタル庶子カ實母ニ非ナル父ノ配偶者

稱フ謂フトシテ其庶子ハ父ノ家ニ在リタル而可ナ所據シ人夫ハ實母ト對

生徒 家ヲ同シウスルト否ト問ハス父ノ配偶者ハ常ニ嫡母ナリト信ス
講師 子ハ前ニ説明シタル繼父母ト繼子トノ關係ノ如ク庶子カ父ノ家ニ入り

夫ノ父ノ配偶者ト家ヲ同シテ若夫ノ間シタルシタ事の場合オラツルハ各ラバト

信又何ほナレハ若シ庶子カ初ヨリ父ノ家ニ入ラシシテ父ト家ヲ異ニスルト

シキハ父ノ配偶者不ホ何等家族的關係ヲ建物又開タ親子獨り等シキ情義固存

一キ理由ナク又其必要ナシハナリトテ、既に其家ヲ去リテ、亦同ド
トアリ如何ナル場合、所謂オルカ、又、夫婦、父子、兄弟等、是ニシテ、
生徒、生存配偶者、養子縁組又、婚姻等ニ因リテ他家ニ入りタル場合ナリ。
講師 實家ニ復籍シタル場合、如何ニシテ、即ち、夫婦、父子、兄弟等、
生徒、其場合、包含スルヤ否。又、過得者、當、被相手等、人。
講師 何等ノ條件ヲ要セシテ、生存配偶者ハ隨意ニ他家ニ入り、又、實家ニ復
籍スルヲ得ベキヤ。即ち、父、母、夫、妻、子、孫等、其實姓也。非夫、妻、父、母、夫、妻、
生徒 民法第七百四十一條及ヒ第七百三十七條等ニ依リ、各、相當ノ條件ヲ要ス。
講師 烟族關係ハ第七百二十九條以外ノ原因、由ヲ定ムニ關する事
生徒 同第七百三十條第二項ノ原因アリ。

講師 戸主トハ如何ナルモナルヤ。又、其實姓也。非夫、妻、父、母、夫、妻、
生徒 家族ノ主宰者ナリ。又、夫、妻、子、孫等、其實姓也。非夫、妻、父、母、夫、妻、
講師 然ラハ家族ナシヲ始メテ、戸主アリセバ、夫、妻、子、孫等、其實姓也。

生徒 然ラヌ家ノ主宰者ナル意味ナリ。
講師 家トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ。

遺嘱制度

大類

講師 元來家ナル觀念ハ其由來スル所甚タ遠ク昔時ニ在リテハ家ヲ重シタル
コト今日ノ比ニ非スト。雖モ如何ナルモノヲ以テ家トスルカニ至リテハ頗ル
漠然ノ感ナクシテ、非ス然レトモ概シテ之ヲ言ヘハ廣狹二義ニ出クナルカ如
シ即チ廣義ニ於ケル家トハ素ト同一ノ家ニ屬シタル者カ分レテ數家若クハ
數十家ト爲リタル後ト雖殊之更合セテ、一家ト謂フ。尙ホ源家、平家ト云ハシカ
如シ民法ニ於テモ本家分家ノ關係ヲ認メタルニ非スト雖モ其所謂家キム斯
ル廣義ノ家ニ非ナルナリ。狹義ニ於ケル家トハ、戸主ノ統率スル家族團體ヲ
謂フ。單身分家シテ一家ヲ創立シ又、家族悉ク死亡シテ戸主一人ト爲リタル
トキト雖モ之カ爲ク家ノ存在ヲ妨ガナル所以ノモノハ此場合ニ於テのみ事實
上家族團體ナシト雖モ仍或想像上此團體ヲ認メタルモノト謂ハサルヘカラ
ス而シテ民法ニ所謂家ハ即チ此狹義ニ於ケル家ヲ謂フ故ニ家トム戸主ト草

實上又へ想像上の家族ノ關係ナリ解説ヘタ隨々事實上家族才た場合ト確
セ而ヨリ戸主アメコトヲ妨ケサルカアレ、其妻ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫
講師 民法第七百三十二條「戸主ノ親族ニシテ其家ニ在居者及と其配偶者等
之ヲ家族トス」トテ「妻配偶者」とハ如何ガ者又謂之カ「戸主」入居被り或
生徒 戸主ノ親族ノ其配偶者ヲ謂之元來戸主ノ親族ノ配偶者ハ常居戸主所屬
族ニ非ス故ニ戸主ノ配偶者ヲ家族ト爲スノ意ナリ例ヘテ戸主ノ配偶者ニ常
族ナシトモ其配偶者小親族ニ非常ルモ仍ホ家族ト爲ル者如本妻妻夫等
相続人等也、然ニ夫婦ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫
夫婦ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫
意思表示ニ付テノ推問

法學博士 梅 謙次郎

講師

妻伴行為ト夫婦何故然則大體

生徒 法律行爲宣べ私權及關稅者法律上無效果論生前以體恤意願開示夫婦
由テス前段此狀況下在不外矣夫婦間有而許特夫婦夫婦夫婦夫婦夫婦
講師 戶生ヨリ夫婦ニバ法律行爲モ爲テ是ノ事不外不外不外不外不外不外不外
生徒 生前此シメント云フ意思ガアリバ寛容ノ所アリテ是エヘテ次々へ與人ニ其
講師 除キウスルト條件附法律行爲ハ停止條件附ナラバ條件成就ノ時カラ其效
力ヲ生ネバジビデスカニ條件が成就シナク然ベ效力又生ゼ不カ矣云スヨウ
テモ法律行爲ニ達ナイデセウ

生徒 既ニ夫婦ニバ夫婦ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫
講師 意思表示トハ皆シナコトズルモノハーフノ行爲ニ付テ自分ノ欲スル希望ヲ他
利ニ通ズルノ方法ダニリマス

講師 既ニ夫婦ニバ夫婦ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫ノ子孫
云フ考ガアル其場合ニ意思表示ヲシムト云アレ私ノ意思ヲ手紙書面文字
ハクシテ書キ紙マタラバソレヲ意思表示ハアタシテト云ナルズカ

生徒　其レハ先方へ通知スルニ自己ノ爲スベモ意思表示手續ヲ不スレバ宜シ
オノジ、對話ヘ基準セハ向方大開ヒタレル宣モ郵便人至使ハ郵便函セ其手紙
ツ投函タレバ宜シ、自分ノ爲スベモ範囲ヲ越セバ宜シト云フノ式ス

講師　其レハ日本ノ法律デヌカ

生徒　タリ臺ニテ居リマスハキヘ一々ヘ丁寧ニ甘ニ自体ノ意又モ急務モ期
講師　其レハ少シ記憶達メヤウアス、日本ノ法律デハ原則トシテ其レガ相手方
ニ到達シナクレバイカスト爲フテ居ル、唯其レニ例外ガアルガ其レハ知リマセ
スカ若者冒頭ニ載セトモ可也

生徒　例外ノ場合、承諾シタル事云次第トテ、發信ナシ或ムレ未宣不文云云モトガ
契約法ニテナシテ特例此等言葉ハ専主對音韻セキニ兼音韻幕、細セキ其效
講師　意思表示ハイズモカタ云ツ風ニ事紙ヲ向タニ發スルトカ、又ハ或人ニ其
言フモト方聞ニテカタハチラ算ト云フモテスカ

生徒　詰リ法律行為デゴザイマスカラ或書面ナラ書面ニ付テ自分ノ爲スベキ
公範圖志謝セシ宜シ恭順ニ願テ書面前カ或來對話者間バ場合、確幸垂上矣ハ通

足デスガ、法律行為ト云ハゲ廣イカラ方法の他ノ方法デモ機ハシト思ヒマス
講師　相手方ノアシ時分ニ相手方ニ聞キルキタニモフニ書面ヲ讀フトカ相手方ニ手紙
ヲ出スナリ電報ヲ發スルナリ向而ニ思ふ處ズセシヤウニシナカドモ宣イ場
合ガアリマスカ、ナラニテ謀ニシテ、正當且善、主義等でハ議論、談話等平太
生徒　相手方ガアラズモ成場合モハ常ニテガニス方法ヲ取リマヌケタビモ單獨
行為デ以オ訪テ自ラ其責任ヲ負ハゲ單獨行為モ出来ル場合ガアル
講師　其レハドク云フコトゾ、ナラニテナシト云クモハシト

生徒　其レハ民法第百九條モ規定テアシ如ク自分ガ他人ニ對シ而第三者者ニ自
身ノ代理權ヲ與ヘタト云ハベキ其他人ニ通シナクアモ矢張其行為ハ確定シフ
成立スル、然ニテ單獨行為非ガル、モハシト之を認めたる事也

講師　ナラスダクト今ノ第百九條モ甲乙共モ向ツス言ニテ御私ニ兩西是ノ事意
符ヲ代理權ヲ與ヘタクモ所ラ此意思表示モ相手方顯示乙無違心者ナモ宣セ
ズカ其セラニ其憑合ニ甲シ意思表示ニ内ニ機ニハ意想表示ニ該ヒテニ及申
生徒　土甲ガ乙ト云フ者ニ對シテ自己公誰識ニ代理權ヲ與ヘタト云フコトハ地

主シナカタノアリテ云ノ所ニ方ラバ此種大ニ相替ヘテハ皆人間ノ如クニテ宣不外
講師 個ナガラ其場合ニ甲ノ意思表示ガ丙ニ對スル意思表示ニ爲リマスカ甲
ノアリ同上之意思因ラ代通人ニ致シテ是是ハ權限ナシムナシ本セシ定力
ト言フ其シム乙ノ處ヨ半紙ナリ何ヲナ言ダキル所ダ是カ丙ニテ主シナ
意思表示ニ爲リマスカ

生徒 意思表示ニハ爲ラチイケレドセ公鑑規定上ニアリ非其儀ノ事実マニ
講師 其シハ別問題アリザウスカトオラニニテアリムニアリ此意思表示ム相手方
相手ラモ書面ガ向ラニ居カテラレバナラヌト云フモノズスカ

生徒 遺言ト男何ドカ云フ場合ニハ相手ガナタモ出来マヌ合マズ

講師 ラクスルト云ラド相手方ノナル法律行為ニ付テハ其意思表示ム相手方
ニ達シナラムナラス、斯ツ云フノガ我民法ノ主義デアル、遺言ノ如キ相手方
ヲナオ行ハニ付テ實唯自分ナ書面ラ作ラ事皆ノ抽斗ミ久シナ直オラ毫效ヲ
要スル、相手相手方ノゾル場合ヲモ民法第五百ニサヘ六條第二項ノ場合ヲ知尋
又別ニ李繼夢書オタニテトジナラムを意思表示ハ成立天祐ハ未ナ思コム

講師 意思表示ト云フノ意思ガ必要ズ云々ガ著立スルモ意思表示ト云フ場合
ニハ其意思表示ト云フモノト意思ト云ニ連くヤリモ合意モ居ルモノズス
テ法律上效力メアル意思表示主當者之意思ト云フモナモ合意モ居
ラマスカ上皇並ナ金相押ヘ貰エキ宣トイニシニヨリモ思ニ可也、且合意ニ會合
生徒 普通ノ場合ニ合意ノ房押又食家文書モ法律上效果ヲ來スバ場合ガ
モアノルヘニ甲ビニシニヨリ金相押セキ金相押モ蓋山形ハシニ其學会ニ當ニ甲
講師 其レニ下ク云フ場合ズベシハナベキハ七點合てスノカナ御ナ御手ガ馬本カ
生徒 真意留保ノ場合ズス

講師 其レハドウ云フ場合ダスハ金相押セキモセキモ申出セキモ相應ニ會
生徒 意思表示ノ表示者ガ眞意ニ非ヅルコトヲ知テ意思表示ヲ爲シタ場合デ
ス
講師 例ハ此學會ニ合意モセキモセキモ申出セキモ相應ニ會合ニ當ニ甲セキ實セキモセキモ
講師 其セガ效ヲ持フズカタメトシカハ甲セキ家セ貰セ大トモ貰セ
生徒 指手方ガ其事實ヲ知ラナモ賣キヤ有致ニ爲ゼハ賣セ意想ヘゼンカノ
講師 ナタ不ルト表意者ノ眞意ズナイトヲ知ラナケレバ效ヲ持フト云フノ

デスク、其シハドンナ場合デセウトヨリモ職モセキシニテ業モセキシニテ

生徒 例ヘア甲ガ自効ノ家ヲ乙ニ賣ラウ事云フ自効ハ賣ラ意思ハナイケレドモ單ニ金ガ欲シオ爲ニ賣ルト云フタ、乙ハ甲ガ其家ヲ賣ラナイト云フ真意ヲ知フテ居ル場合ニハ無效デアリマスケレドモ若シモ甲ガ其實ラナイト云フコトヲ知ラナイ場合ハ有效デスニ張セムニオモ既て意思表示ミ得ム又場合は

講師 サウスルト家ガ賣レナサレバ金ガ取レスカラサウ云フコトハ問題ニ爲ラヌ

講師 (他ノ生徒ニ對シ各々場合ハドンナ場合デス

生徒 例ヘア甲ガ乙ニ向ツテ金時計ナラ金時計ヲ差上グマセウ、其場合ニ當ラテ甲

シハ異實ニ金時計ノ所有權ヲ移轉スル考ムナシ、戲談ニ言ツタガレドモ乙ム今ヤ

デノ關係上是位ナ金時計ハ賣ツテモ宜イト云フコトヲ思フテ居タ場合ニ會ア甲ガ金時計ヲ達ラウト云フタカラ異實吳レタラクアラウキ云フンデ乙ガ金時計ヲ受取フタキハ甲ハ異實デナヨコトア主張スルカトム出来チ

講師 無關係ノ人ガ金時計ヲ吳シルト云フ場合ニハドウテ表示イ云ニ得合

生徒 其場合ハ賣ハクト云フ方ガ常識ガ缺ケラ居タノデ平生何ノ關係ゼナシ

カラ吳レヤウト云フテモ戲談ニ相違ナイト思フ

講師 法律ニナツ云フ風ニ書イヲアルデスル常識ヲ以テ信ジ得ルモント書イテアリマスカ

生徒 詰リ普通ノ人間ガ普通ノ考ヲ以テ斯ラ云フヤウナ所有權ヲ取得スベ考

謂レナイト思ハレルヤウナ場合ナラ宜イダラウト思フ

講師 其レデモ宜オガ、法文ニハナツ云フ風ニ書イヲアルモ相手方ガ異意ヲ

知フタキ又ハ異意ヲ知リ得ベカリシトキ、其トキハ無效デアル故ニ今ノヤシ

ナ場合ハ戲談デアルコトヲ知リ得ベキデアルガ受ケル人ガ餘リ馬鹿正直ア

アフタラ知リ得ベキ場合デナカッタカモ知レナオ免ニ角其レハーフノ例デアルガ、詰リ異意留保ト云フノハ戯談ノ場合ハカツデアリマスカ

生徒 ナウデアリマセヌ

講師 戯談デナオ例ヲ言フテ御覽ナサイ、戯ノ場合デナクシテ意中留保ノアル場

合ハドンナ場合デス

生徒

詐欺ノ場合ナドデス

講師 詐欺ガ意中留保デスカレヤト、然ヘ場合は、意中留保ヘーベ

生徒 例ヘバ甲ノ所有權ヲ賣ル積リテアフタノヲ自身ガ誤ラ乙ノ物ヲ賣ラウト云フコトヲ相手方に言クタ、或之云フセウキの場合ハ詐リ錯認デス

講師 テウスルト意中留保デナ、アナダガ錯認ニ附ラ武其ハーネヘ開キテ

講師 (他ノ生徒ニ對シ) ギウデス、今ノ例ヲ舉ゲテ御覽ナシメ、翁シ其錯認直ニ

生徒 考ハ附キモスケレバ、併シ其錯認之法律行為人要素ニ錯認ガアヌ場

合ハ無效デアリアエガ要素ニ關係之ナ黒き者ナ場合ナシニ思テアリ黑無モ

トドクモ考ガ附キモセ又撮合セト宣トセシイ思テ

講師 アウ六ヶ敷月日より前モ、偶々屋賣置ナニ賣買ニ自己ノ意思ノ申ニハ成

條件ガアル、例ヘバ私ガ自分ノ所有ノ家屋ヲ賣ラウ、是ハ今直グ賣ラウト云フ

考デシナ、自分ガ近ノ中モ田舎ニ引越セタ、其居ヲ居テ有分ガ田舎ニ引

込ンダナラバ賣ラウ、或ヘ引込ノ時モ賣ラズト云フ意思デアル、其事ヲ言ハナ

キイデ單ニ賣ラウト云フ、セキヤセキ業者賣置爲メ、相手方ガ其業者信セテ

出立レ契約買ヒクト云フ所ガ後カラ是ニハ條件ガ附イテ居ラタカ期限ガ附イ

ト居アヌト要云テ下車ノ無論證據共出ナニ留保テラマカ、其證據テヘ出タナラ

出シク事意中留保ノ件、要證據共出テモ單純ノ賣買ノ並舉意念ヲ表示

シテ單ノ知シ居ラタカ云フ證據共出ル大抵ハ單純ノ賣買トシラハ無效デア

ル、而モ多クノ場合ニ於テハ條件若クハ期限附スル意思デアルト云フコ

ト、又手方ガ知リテ居ラタカテナバ賣出リテ去ラトキニ其條件附又ハ期限附デ

シテハウド思フア居タノダラウト思フ、テウスルト條件附若クハ期限附ノ賣買

が成立ス、我民法デアヌ規定ガニラシ爲テ居タルカヌ斯様ニ純然タル意中ノ留保

ト外ニ戲テ行爲道義不居ガ、學者モ傳テ此之ヲ除オフ意中ノ留保ト曰

詐欺 (詐欺生徒ニ對シ) 今遺思フ表示著實細節立派居テ法律上數力ラア、揚谷

誠明意中留保ヲ易吾ナルト云フ御話ガアフタガ外ニモナウ云フコトガアリマ

サヌカ取手次ノ詐欺文獻ニ、詐欺ノ意圖表示其體合致スミヤス

生徒 文相手方ト通ジテ爲シタ虛偽ノ意思表示ガ其場合デアリマス

講師 其レガ效力生ジマネオホテ時品モトタシ授ニシセキテ云クセイセドシテ
生徒 書面者聞ニ於テ無效ズモ書面第三者ニ對照者ハ有效ズ。書及權
儀ノ意思表示オ第三者ニ附シ失效力ヲ有スル場合ガアリテカセト

講師 ベナウスルを虛偽行為ト云フモテ本來無効ニアリケレモ書面ノ第三
者ニ向テアハ無効ヲ主張シムヨトガ出寒カシト云スルゾガ無
生徒 ベナウスル

講師 其トキハ本來無効ノ行爲ニ法律ガ效力ヲ認ムトモスカ此謂て
生徒 ベナウスル

講師 ミ其虛偽行為ト云フアハドウ云アの場合云々此謂て書面無効安
生徒 其當事者ハ其行爲ヲ爲スノ意思ガナクシテ表示シタ場合デス。此謂て
講師 其レガネオハ虛偽行為ニ爲リ斯ヌアナウスドト他ノ當中留保ガゾノ場
合カドウ達又相手方ト通ジテト云因人ガ能候ズヘタモノズカヘ田次モセ
生徒 ハ條件ガスルト云々此謂て書面無効安

講師 ベナウスルト相手方ト通ジテ云アノドウ云フコトデムカ此謂て書面無
生徒 文相手方ト云ナコトメテト云アノドウ云フコトデムカ此謂て書面無
講師 ナウスルト相手方ガ知テ居ラタニ云フダベタムル事カ此ハナニカロイ
生徒 カ知テ居ラテモ宜ハ事實ガカルト云フコトテ雙方ダ知ラタ居ニシテ虛偽ニ爲
カズス機知モ無ニシテ事実無事理ト本草ハ意學未大ト只イ裏面ハ實ナシ文書無
講師 ナウスルト先フノ意中留保ノ場合ニ相手方ガ真意ヲ知テ居ル場合ニ無
效ニ爲ルト云ナシガアタガノ場合ハ虛偽行為ノ場合デスカ否ト云々然ル
生徒 真意留保ノ場合ガ一方ノ意思表示ニ對シガ相手方ガ其事實ヲ知ラタ居ル
所ガ虛偽ノ方ハ當事者雙方ノ意思表示ガ虛偽デアルコトヲ知リツツシタノ
アス

講師 ベナウスルト契約ニ法ガ適用ガナシルトテ左ノ一方行爲ニハ適用ガナリ
デスカ期付寄付申付及付及付及付及付及付及付及付及付及付及付及付及付及
生徒 判明テ極ム文ヘ振舞ナシ大中ノ書類未付及付及付及付及付及付及付及付及
講師 (他人生徒ニ對シ)ドウデス虛偽行為ト當中留保ノ場合トドウ云フ述達ガア

第三ノ法スカ云「通謀ヲ爲シ又眞實無誠意申す者ハ虚偽行爲也」
生徒 虚偽行爲ノ方ハ通謀ト云フコトヲ要スル時ノ第三者ヲ害セント欲スル
コトヲ謀ル害スルト云フコトヲ最モ要素トスル

講師 サクスルト第一ニ謀ムト云スコトガ有矣且第三者ヲ害スルト云スコト
モイルノズスカ

生徒 動列テ本ハ當權者處へ意思表示及顔面失ハシキ事例也
講師 其以少シ違テ居マテ通謀ト云不ニ附べ能外言はズ能者本職モ當イ
クナム併カ某通謀ト云タヌヘタ猶然不無者民法そ公道ヒト書イタアム
併ナガラ通ズル長云フヨリ附ク云不ニ麻先不ル及見云際ト甲ガ意思表示
ア乙ニ對シヲ爲スナウシテ甲ノ本當ノ意思ナノイコトヲヤルノズアム
去例ヘ破私ガア六タニ私相破動産ヲ差上久ニセクト云ス併大視テ是無虛言誤
解本ル計云フヨリ對シ、是ガ「通シナ」ト云云スレバアム、豫モ謀ルト云スコトハ
止ムラが有、況ヤ第三者ヲ害スルト云フコトハイラス目的モ第三者ヲ害シヤウ
前例云々目的ガ判示シテガ原ハ虚偽行爲入中デ例ニヤ家算モ太變安ク貸シテ

居ル、是以友人カ何カデ安ク貸シテ居ル所ガ不動産ノ貸貸借ハ之ヲ登記スル
も直ナ得ル事爲フ居所の登記シヤウト云フ唐南ニ安イ家賃ヲ登記シテ居
ルト現在ノ借主方止メ要他シ者ガ借リタト音耳前件所載ヲ原ヘ貸シナ居
フタト云ハレルト相當ノ家賃ヲ取ル妨ト爲ルソレデ態ト表向ハ實際ノ家賃ヨ
リ高イ借貸ヲ定メテ置シ人ガアル、サウ云フ場合ニハ兩人シ而シ契約ノ書面
オナドニハ百圓ナラ百圓ト書イラアルガ其實ハ五十圓シカ拂ツ居ラムト供フ
コトガアル、其場合ニハ第三者ヲ害シヤウト云フ意思ハナイガ自己ガ不當ノ
損害ヲ受ケナイ豫防ヲスルノアルガク云フノハ少シモ惡イ分子ヲ含ンデ
居ラナイガサク云フシキ矢張虚偽行爲デヨリ此種合意ハ極小法スヘ
講師 (他ノ生徒ニ對シ今ノ意中留保若ク眞虚偽行爲ソ外ニ意思表示未
合ハナリ場合デ法律ガ效力ヲ認メル場合ガア實令スカ本來無效テ有り者
生徒 其レハ法律行爲ノ要素ニ錯誤ノアフタ場合其時分ニハ有效ト云フコトニ
以爲リマセバケレドモ若シ表意者ノ方ニ重大ナ過失ガア後ヘ者を表意者ノ
方カラ其無效ヲ主張スルコトガ出来マセニ其場合ニ法律行爲ノ要素ニ錯誤

ガアリナシテ其法律行為ガ效力ヲ拂チマヌ其故意者重大ナ過失ガリ、
錯誤ノアリマンシタ場合ニ成立ズモメダ、其場合ニム法律行為ハ成立ズモト
ク署ナケレバナラス、其故意者重大ナ過失ガリ、其場合ニム法律行為ハ成立ズモト
拂師ヘテウスカト法律行為ノ要素ニ錯誤ガアリの場合ニヤ本來無効デアルガ、若
歎シ表意者ニ重大ナル過失ガアルト表意者一方ガ無効ヲ主張スル者トム由来
ナシ、其レ故ニ本來無効ナシ行為ニ效力ヲ認ムハ場合ガアルト云フノデス子
生徒ナウデスト教諭也之處ニ有スル事ナシモテ、此乃モ思慮緩慢等ニ當必致
拂師ヘ其法律行為ノ要素トハドンナモノデス、然思慮急躁不當自居不當、
生徒要素ヘ第一ハ法律行為ノ目的ナルニミガナケレバナシエ、其目的ト申シ
マヌノハ必ズシモ目的物バカリデナクテモ其外ニ場合デモ廣く意味ニ取リ
マス

拂師 テウスルト例ヘバ賣買ノ場合デアルト賣買ノ目的タル權利即チ賣主カ
ヲ買主ニ移轉スベシ權利或レモアナタノ言フ目的デスモ、此謂賣主
生徒 左様デゴザイマス

拂師 ソレカラ買主ガ代價ヲ拂フト云フ代金ハ
生徒 代金モ亦目的デス
拂師 ナウ云フノガ法律行為ノ要素ト云フノズカ
生徒 左様デス
拂師 アナタノ言フ目的ノ外ニ法律行為ノ要素ハアリマセヌカ
生徒 當事者が必要ノ場合ガアリマス
拂師 其レハドンナ場合デスカ
生徒 和佛法律學校ニ持ツラ茶ア一萬圓寄附スルト致シマスト其和佛法律學校
ト云フ所ヘ金ヲ贈與スルト云フ贈與物期ナ金モ一ツノ目的アルガ此學校
ナウ云フ場合當事者ガ法律行為ノ要素ト爲ルノデス況且ヘリテ
生徒 ナウデス
拂師 斯カ云フ場合ハドナニ道入ルノダス、私ガ或名高者並工ニ繪文題美工云

フ積リテ間違ヘタ他ノ人ニ頼ンダ、サウ云フトキハ法律行為ノ要素ニ錯誤ガアルト云ヘマスカ、例ヘベ橋本ト云フ畫工ガアフタ其レハ名高イ雅邦デアラウシト思フテ頼ンダ後テ調べテ見ルトツマラニエ畫工デアフタサウナ場合ハドウデス生徒其場合ニハ何ノ某ト云フバカリズナクヲ何ノ某ノ畫ト云フコトガ必要アル、橋本雅邦ト云フモノガ要素ニ爲ル時長主の書類等を御用意セラ講師其場合ニハ當事者ガ要素ニ爲ル時要ヒ分スカセ、自前セラモ可也、但學對生徒左様デザサオマヌ強ヒテ申シ傳達係云フト當事者ニ錯誤ガアリヤセ外其橋本雅邦ト云フアモ矢張モノ目的ト云フコトガ出來マス

講師 通常ノ學者ハ當事者ノ錯誤ト云フテ居リマスガ、私共ハ純然タル目的ノ錯誤アルト思フ、契約ノ當事者ハ橋本雅邦ヲ畫ト云フコトキダアフタ畫ヲ書ク人オガ橋本雅邦デナインデ、橋本雅邦ヲ描キタルモノニ爲リマセヌカラ、純然タル目的ノ錯誤デアラサニ思フ、サウ云フモノハ法律行為ノ要素ノ錯誤ト云ヘマ士スガ要素デナオモノデモ例ヘバ期限ニ付テ錯誤ガアフタ、私ノ方デハ一年ノ後期ニ履行スベキ積リテ居ル、サウスルホ相手ヲ方デハ一个月ト聞キ達ヘタ、サウ

云フトキハ兩カズス便ヘボ金大信美都期限ズモ賣買ノ期限ギモ何デモ宣付金額メ一年ノ後ニ支拂カヌ金利一萬圓貸シテ奥レト、サウ云フ提供リシ物其レニ對沙ク相手方亦宜報本ト云ウタガ、併ナガラ其レハ一个月ノ後期リテ宣イト云フタト云フ證據ガ舉、タ其レハドウデス

生徒 矢張其場合ニハ要素ト考ヘマス

講師 大概

サウスルト目的ノコトモアリ當事者ノコトモアリ期限ノコトモアリト云フノテスカシヒテニ履行ノ場所ニ付テ錯誤ガアフタドウデス、東京デ履行スル積リテアフタ、サウ云フ風ニ申込ノ方デハ意思ヲ表示シタ、所ガ相手方ノ方デ間違ヘテ大阪デ履行スルト思フテ承諾シタト云フヤウナ場合ハドウデス承諾ノ方ノ意思表示ハ錯誤ニ因フテ居ル、其ズニ矢張要素メ錯誤デスカ生徒客觀矣、誤認也小字ト改更シテ、實證書付紙ハ独立ナニ及ばず、誤認也

講師 其レハ要素ト稱云ムナイカツガス履行時吉カ履行ノ場所トカ云フモノハ法律行為ノ附隨事項デスカラ要素トハ視察レヨリナク無思フ、併ナガラ條件附ト無條件ヲ無論要素アリト思フ、能々學者モ依フテ體操ノ錯誤ハ要素

失業誤ダガホト云フガ條件ハ法律行為有效生ま全ガセシムルカドカト云
スコ利失アシカ失是ハ無論要素ダアガト思フ併シ期限ヤ履行ノ場所ナリハ
其レム通常要素ヲ觀ナ居ラヌ其場合ニ根本當ラ言ツ事意思ト表示トガ合ハ
エガ其錯誤ノ程度ガ小サイカラソレデ法律行為ハ成立セシメテ唯誰カニ過

失ガアシレキ過失者ハ損害賠償ノ責任ヲ負ヌヌトガアルデセウル

留置権ノ大過ニ歸ヒトナリ也本論ノ元にてテモテセシム合ハシムトガアル
ベシ前記セシムトガアル也此ニ申シテ次第ニ意思又意思ニ及ばざ候事也

留置権ニ付テノ講演

主婦 夫妻其場合ニ付要件ナシハ法學博士 梅 謙次郎

其他數多ノ國ニ於テ物權トシテ之ヲ認メテ居ラス矢張債權ノ效力トシテ認メ
テ居ル國ニ依フテハ債權ノ性質ニ付テ議論ガアル例ハ佛蘭西ノ如キハ果シテ

留置権ノ性質ハ色色沿革モアリ各國ノ施行法モ一樣デハアリテセシ黒馬ニ於
テ留置権ハ債權ノ效力ニ過ギナカツク物權ニハ爲テ居ラナカツク今日デモ偶逸

其今はハ留置権ノ御語ヲ致シマス

留置権ノ性質ハ色色沿革モアリ各國ノ施行法モ一樣デハアリテセシ黒馬ニ於
テ留置権ハ債權ノ效力ニ過ギナカツク物權ニハ爲テ居ラナカツク今日デモ偶逸
タルノト然ラザルノテハ效力ノ大ナル差異ノアルコトハ勿論デアリマス即
チ物權デアレバ第三者ニ對シテモ之ヲ行フコトガ出來マスガ債權ノ效力ニ過
ギエト云ヘバ唯債務者及び其承繼人ニ對シテノミ之ヲ行フコトヲ得ルノデア
ル故ニ其效力ハ極メテ薄弱カモノデアル但物權トシテ認メズクレバ殆ド必要
ノナイモノアリカト云フト其レ程デベナシ左ビエヨン現在物權トシテ認メ
ナイ國ガ深山アル不動産ニ付フハ殆ド今日ガハ物權トシテ認メザル所ノ留置
権ハ從ニ立タヌ不動産ヲ占有シテ居ラモ所有者ガ其不動産ノ所有權ヲ他人シ
マスルト云フト留置権者ノ權利ハ到底其者ノ權利ニ勝ツコトハ出来ナイ昔人

羅馬ノヤウニ登記ト云アモリガナタナシノ不動産ノ所有權者移轉ニ古原
則トシテ、動産モ不動產モ引渡フ要スルト云ア主義ヲ取テ居ル國ナシ
張物權ナラザル留置權ガ十分ノ效力ヲ有スルトニ爲ル、併シ今日テハ不動產
ニ付テハ物權ナラザル留置權ハ至ラ薄弱力權利アル、ケレドモ動產ニ付テ
今日デモ矢張留置權ガ、縦合之ヲ物權トシテ認メタクモ實際ニ相當ノ效力ヲ
持ツコトニ爲ル、其謂ハ御承知ノ通リ動產ニ關スル權利ノ移轉ハ引渡シ因フ爲
ス、否第三者ニ對抗スルニハ引渡フ必要トスル、其レ故ニ第三者ガ何人ニモ對抗
シ得ベキ權利ヲ動產ノ上ニ取得セントスルニハ勢ト體置權者カラ物ヲ取返シ
テ、ナウシテ之ヲ第三者ニ引渡シテ後テナケレバナラス、縦合動產ノ所有權ヲ買
タ者ガアラモ引渡フ受ケルマデハ私ヘ買主ダゴザルト云フテ留置權者ノ處ニ請
求ニ行ク譯ニハイカヌデスカラ動產ニ付キテハ縦合之ヲ物權トシテ認メタクモ
モ相當ノ效力ハアリマス、
尙ホ動產不動產ニ通ジテ言ハバ債務者ノ入用ナル物デアルナラバ債權者ガ之
ヲ留置シテ居テハ大ニ不便ヲ感シマスカラ自然ニ速ニ解消ヲ爲スト云フヨト

ニ爲ルノデ此點ハ今日テモ不動產ニ付テモ猶ホ存スル所ノ效力デアル、去ナガ
ラ私共ノ信ズル所デハ留置權ヲ認ムルコトヲ必要トスルナラバ序ニ之ヲ物權
トシタ方ガ宜シイ現ニ不動產ニ付テハ物權トシテ居ラナケレバ殆ド有名無實
ノ場合ガ多イ、之ヲ物權トシテ認メテ置イテモ若シ債權ノ範囲ヲ適當ニ制限ス
ル以上ハ別ニ弊害ハナカラウト思ハレアス、我民法ノ規定スル如クシバ其債權
ト留置物トノ間ニハ密著ノ關係ガアルナウシテ概シテ之ヲ言ハバ金額ハ少イ、
例ヘバ物ノ修繕ヲ爲シタ者ガ修繕費ニ付テ留置權ヲ持テナドト云フ場合動產
ヲ占有シテ居ル者ガ其動物ニ食料ヲ與ヘタト云フヤウナ場合斯ウ云フ場合ニ
ハ其債權額ハ物ノ價額ニ較ブレハ極ク少額デアリマス然ラザル場合例ヘバ賣
買ノ場合ノ如キハ是ハ先取特權ニ與ヘアル、解除權ニ與ヘアル位ノ場合デ
アラスカラ金額ハ物ノ價額ト同シオデアリマセウガ決シテ不當トハ云ヘナ
イ、其レフ與ヘストラ他ノ方法デ矢張代價ノ辨済ノ終ル度ニハ債務者即チ買主
ガ完全ナ權利ヲ得タモノト思フ譯ニハイカヌ、其レ故ニ我民法ハ物權說ヲ採フタ
ガナ此留置權ノ範圍ニ付キヤシテハ各國其規定ヲ異シシテ居ル、我法律デテ

民法ト商法トハ既ニ規定ガ異ナフテ居ル先づ民法ノ留置權ヲ申上グマスルト、第一ノ條件ガ留置權者ハ他人ノ物ノ占有者デナケンバナラヌ民法ハ債務者ノ所有物トハ申シマセヌ、他人ノ物ト云フテ居ル、故ニ第三者ノ所有物デモ解ム、例ヘバ他人ノ物ヲ借りテ居ル人ガ其借用物ノ修繕ヲ或人ニ頼ム、其修繕費ト云フセノハ留置權ニ依テ保護サレル、即チ其修繕ヲ爲シタ者ハ修繕費ヲ支拂フ受クルマデハ其物ヲ留置スルコトガ出来ルガ債務者ハ所有者デハナイ、其借主デアリ、サウ云フ場合ニモ我民法ハ留置權ヲ認メテ居ル、此は民法第226条、但書ソレカラ第二ニハ其債權ハ物ニ關シテ生ジタルモノデナケレバナラヌ、即チ先刻以來例ニ出シマシタ物ノ修繕ノ費用是ハ物ニ關シテ債權ガ生ジテ居ル、其他物ノ保管ノ費用是モ物ニ關シテ生ジテ居ル、賣買ノ場合ニ於テ代價ト云フモノ賣買ノ目的物ニ關シテ生ジテ居ル、其賣買ノ目的物ヲ買フタラ代價ヲ拂フ債務ガ生ズル其他委任契約ナドニ委任ノ履行ニ因テ占有シタル物或物ヲ買フタラレト頬マレテ買フタ來タ、其レハ委任ノ履行ニ因テ占有スルモノデアル、其レト委任契約ノ結果デ受任者ガ立替ヘタモノ例ヘ、今ノ場合デ云フト代價デス其レ

ハ買主トシテ請求權ヲ持フテ居ルノデハナイ、立替金ノ償還ヲ求ムル權利ヲ持フテ居ル、其レハ代價ノ全部デモ一部デモ宜イ例ヘバ大凡百圓位スルモノヲ買フタ來テ吳レト云フテ百圓渡シタ其レガ足ラナクテ十圓受任者ガ立替ヘテ置イタト云フコトガアル、是ハ物ニ關シテ生ジタル債權デアル其他此類デアリマス、此點ガ各國ノ立法例ノ大變異ナル所デス、我法律デモ商法ト民法デハ此點ガマルデ遙

ソレカラ第三ニハ債權ガ辨済期ニ在ラチバナラヌ、マダ辨済期ノ來ナイ債權ノ爲メニ留置權ヲ行フコトハ出來ナイ、是ハ尤ナコトデス、辨済期ノ到來スルマデハ請求ヲ爲スコトガ出來ナイ、請求シテ見ヌケレバ債務ノ履行ガアルカ、ナイカ分ラナイ、債務者ガ任意ニ履行スルノニ留置權ナドヲ與フル理由ハナイ其レハ期限ニ至フテ見ヌト分ラス、期限ノ到來シナイ中ニ半年ノ後、一年ノ後ニ支拂フ受クベキモノガアルカラト云フノデ或物ヲ留置シテ置クサウスレバ債務者ノ方デ其物ガ入用デアル場合ハ勢ヒ期限前ニ支拂フシナケレバナラヌヤウニ爲ガ、間接ニ期限前ノ支拂ヲ強フルヤウナ結果ニ爲ル、サウ云フヤウナコトハ不公平

デスカラ法律ハ認メナイ
第四ニハ物ノ占有ガ不法ニ始フハナラヌ、ソレデスカラ惡意ノ占有者ハ留置權ヲ持テマセス、幾ラ物ニ付テ必要費ナリ有益費ナリヲ掛ケマシテモ其償還ヲ求ムル權利ハアルガ留置權ハ持テマセス、況ヤ詐欺、強迫等ノ結果デ占有ヲ得タ場合ニ於テハ一切留置權ト云フモノハ持テマセス

以上ノ條件ト云フモノハ元來留置權ヲ與フル根本ノ目的カラ割出シタルモノデアル、留置權ヲナゼ與フル、詰リ當事者ヲ公平ニ保護スルト云フノデアル、一ツノ原因デ甲ハ或債務ヲ負ウタ居ル、乙ハ其物ニ對シテ或物ヲ返サチバナラヌト云フ義務ヲ持テ居ル、其義務ハ積極ノ義務デアルモアリ、消極ノ義務デアルコトセアル、此場合ニ法律ハ成ルベク雙方ガ義務ヲ盡スヤウニシナケレバナラズ、然ルニ若シ此留置權ヲ與ヘテ盡カナイトドウ云フ結果ニ爲ルカト云フト、甲ハ辨濟スペキ物ヲ辨濟シナイニモ拘ハラズ乙ハ他人ノ物ヲ返サチバナラヌ、其レヲ返シテ仕舞フト容易ニ取レナオコトガアル、ソレデハ法律ノ保護ガ偏頗ニ爲ルゾレデアルカラ留置權ヲ與ヘテ一方ガ義務ヲ盡スヤデハ一方ガ義務ハ盡サ

メテ宜イト云フコトニスルノデアハ、此規定ハ彼ノ雙務契約同時履行ノ規定覽審契約デハ一方カラ其履行ヲ提供スルアデハ他ノ一方ニ於テモ履行シナクテセ宜イト云フコトガアル、其規定ト精神ヲ同シウシテ居ル、又不履行ニ因ル契約ノ解除ノ規定ト同様ズアル、一方ガ其義務ヲ履行シナイト云フトキハ他ノ一方ヘ契約ヲ解除シテ、ナウシテ己ノ義務ヲ免ルコトガ出來バ、既ニ給付ヲ爲シタレバ其給付ヲ取返スヨトガ出來ル、其レガ矢張公平ヲ旨トシテ居ル所デアゲンレデスカラ佛蘭西方ドズヘ留置權ニ關スル一般ノ規定ト云フモノハナイ、ソレデ種種ノ議論ガアリセスガ或學者ハ不履行ニ因ル解除權ガ即チ贈ニ留置權ヲ認メタモノデアルト云フ說ア吐ク位デ此二ツノ權利ハ全ク同一ノ精神カラ出テ居ル故ニ制限ガ必要デアル債權ト留置物トノ間に密著ノ關係ガナケレバナラヌ、ソレカラ期限ノ來カイ中即チマダ義務ノ履行ヲ爲スベキ時期ガ來テ居ラズ、其トキニ留置權ヲ與フムコトニ爲ル別ニ不履行ノ責ノナイ者ニ向テ自己人受取ルベキ物ヲ受取ル權利ヲ認メスト云フコトニ爲テ却テ不公平デアル、不法行為ニ因ツテ占有ヲ爲シタル者ハ保護シナイ、何トナレバ其レヲ保護スルノハ却

ヲ不公平ニ爲シ、昔シコカラ割出シタモノナアルトキニ、其ノハ留置權ト云フ者モ至當デアル。斯様ニ範圍ヲ制限スル以上ハ私ハ之ヲ物權トシテ認メルノガ最モ至當デアルト考ヘル、所ガ此外ニ商法ノ留置權ト云フモノガアル、聞ク所ニ據テ見マスト、先年文官高等試験ノ問題トシテ出タクナウデス、兎ニ角留置權ノ研究ヲスルトキニ於フハ民法ト商法ト併セテ研究シナケレバナラヌ、商法ノ留置權ト云フモノハ條件ガマルデズ、或意味ニ於テハ民法ノ留置權ヨリ範圍ガ廣イ、即チ其廣イト云フ點ハ債權ト占有物トノ間ノ關係ヲ必要トシナイ其點ガ民法ノ留置權ヨリ非常ニ範圍ガ廣イ、デスカラ一定ノ人ト或他ノ人トノ間ノ債權、債務ノ關係ガアレバ、留置物トハ何等ノ關係ナクナモ宜イ、ソレデスカラ先程申上グタ第二ノ制限ト云フモノガ商法ニハナシ、其代リ又他ノ點ニ於テ範圍ガ非常ニ狭イ、先ヅ先則ノ第一ノ條件ニ付テ云フテ見ルト民法ノ方ハ債務者ノ所有物デナクナモ宜イト爲ツテ居ル、所ガ商法ハ債務者ノ所有物デナケレバナラヌ、此點ガ商法ノ方ガ狭イ是ハサウナクナハナラヌ、民法ノ方ハ債務トノ關係ヲ必要トシナアルカラ其物ハ債務者ノ所有物デナクナモ宜シイザキ例トシテ申上グタ借主ガ其借用

物ノ修繕ヲ第三者ニ頼ンダ、此場合ニ其第三者ハ修繕費ニ付テ留置權ヲ持ツ、是非決シテ不公平ナコトハテイ、其修繕費ト云フモノハ間接ニ矢張所有者ノ利益ト爲ツテ居ルゾレデスカラ斯様ニ債權ノ範圍ナヘ取テアレバ物ノ所有者ノ方ハ制限ガイラス、所ガ商法ノ方ハ債權ニ少シモ制限ガサシ、制限ガナイト云フハ不正確デアルガ、兎ニ角物トノ關係ヲ必要トシテ居ラス、其レ故ニ債務者ノ所有物ト限フテ置カヌト無モニカリモナイ第三者ノ所有物マダモ留置オレタタア、タモノデハナイゾレデ勢ヒ債務者ノ所有物ト云フ制限ガ必要ト爲アルゾレカラ、第二ニ債權ニ付テ民法ノ如キ物トノ關係ト云フ制限ベナオガ其代リ他ノ制限ガアル其レハ大變窮屈ナ制限デアル先づ其債權ハ一ソ商人ト他ノ商人トノ間ノ債權デナケレバナラヌ、商人ヨリ商人ニ對スル債權デナケレバナラヌ、第二ニ其レガ雙方ノ爲ニニ商行為タル行爲ニ因フ生ジナケレバナラヌ、私ガ小賣店ニ行フテ物ヲ買フ、假ニ私ガ商人デアツタ所デ私ノ入用物ヲ買フト云フナラバ君リ爲メニ商行為ト爲ラヌ、又百姓ガ自分ノ作ツ木穀若ク、蔬菜ヲ商人ニ賣ルト云フ場合ニ假ニ此百姓ガ商業ヲ兼ナシ居ツタ其點カラ云ム詩商人デアツモ自己ノ

作フタ物ヲ賣ルト云フストキニヤ商行為メナインフ方ハ商行為ギエケレドモ、サウ云フモノハイケオイ、サウ云フ債權セ留置權、セ、本保証セオレ、双方ノ爲モ、商行為デナケレバナラス、即チ御賣商ト小賣商トノ間ノ債權ノ如キハ是ハ双方ノ爲メニ商行為デアル、ソレカラ或ハ製造者製造業モ商行為デアルガ、製造者グ其製造品ヲ商人ニ賣ル、小賣商人ナリ御賣商人ナリキ買ル、此場合ニ雙方ノ爲メニ商行為デアル、ソレカラ少シ趣ヲ異ニシテ居然モノト申上ゲアスルト商人ナ商業上ノ必要ニ因フ買入レル消費物ノ場合、筆墨紙ヲ買フトカ煙草ヲ買フトカサウ云フモノヲ買入ルノモ商行為ガス賣ル者ノ爲メニハ無論商行為ギエ、標テサウ云フモノガ雙方ノ爲メニ商行為、サウ云フ行爲カラ生ジシ債權ガナケレバナラヌ、
シビカラ最後ノ占有ノ原因ニ付テ民法ノ方ハ唯不法行爲ニ因フ占有シタ場合ナカヌガ其他ノ場合ハ宜ヒトテル所ガ商法ノ方ハ是モ他ニ制限ガアル其ビハ矢張商行為ニ因フ占有ヲ得タニテカケビバナヌ、
セ債權、商行為カラ生ジタ債權、是モ其留置物ノ占有ガ矢張

商行為ノ結果デナケレバナラス、此方ハ其代ツ、雙方ノ爲メニ商行為デナクナセガ委託販賣ヲ致ス場合ニ他人ノ荷物ヲ預ル、サウスレバ、其物ニ付テ連貸其他ノ立替フシタトカ何トカ云フ、其物ニ關シタ債權デナクナセモ至シ無故ノナオ、他ノ債權デモ宜イゾレガ雙方ノ爲メニ商行為タル行爲カラ生ジタ債權デアルナラバ、其レノ辨済ヲ受ケルマテ其委託ヲ受ケタ商品ノ留置ヲ爲スコトガ出來ル、或見本トシテ送ラテ來タ其物ハ留置權セ依フ、
セ、擔保セラレテ居ル債權トハ何等ノ關係ガナクナセ、宜シイ、斯様ナ制限ガアル、商法ノ方デハ或點ニ於テハ民法ノ制限ヨリ範圍ヲ廣クシ、或他ノ點ニ於テハ民法ヨリ範圍ヲ狭クシルト云フノ大亦理由アツクス様ニ爲テ居ル、是ハ商人間ノ信用ヲ助ケル爲メアル、商人間ニ在テハ普通人ノ間ヨリモ一層信用ガ發達シテ居ラナケレバナラス、其レガ爲メニハ若シ違約フスルヤウナ商人ガアタナラバ、相手方ノ方デ何モ構ヘヌ、商業上手ニ這入タ物ハ皆留置スルト云フヤウナコトニシテ保護シナケレバナラス、斯ウ云フ點カラ出テ居ル尤ニ因テハ民法ノ留置權ト商法ノ留置權トマル別

備ノ如ク說キマスケレドモ其レハ間違チ居バ、歐羅巴ノ沿革ハ無論民法ト商法ハ簡體ニ發達シタモノデアル、併ナガラ今日ノ法律ノ進ンダ世ノ中ニ爲ツテ來テ、古ノ沿革ニ拘泥スル譯ニハニカナイ、況ヤ日本ニ於テハサク云フ沿革ハナリ、歐羅巴ニ昔ナウ云フ沿革ガアッタカラト云フ、其レヲ裏フ譯ハナリ、故ニ日本ノ全クソレヘ理由アフテ規定シタモノデアフテ即チ民法ノ留置権ニ對不ル例外アル例外ト云フノハドウ云フ意味ニ於テ例外アルカト云フト、民法ニ定メタ留置権ハ何人ニ對シテモ持ツ所ガ只今後ニ申上グタ條件ノアル場合ニハ民法ノ留置権ノ外ニ尙ホ又留置権ヲ持ツ、民法デハ留置権ノ與ヘテナニ場合ニ亦留置権ヲ持ツ、故ニ之ヲニツ合ハシテ見ルト、商人ガ留置権ヲ有スル場合ハ非商人ガ留置権ヲ有スル場合ヨリ多イト云フコトニ爲ル併ナガラ其留置権ノ性質ニ至テハ異ナルノデハナイ、效力如何ト云ヘバ總テ民法ニ依ルノデ商法ニハ之ヲ規定シテナシ、デスカラ留置権ノ生ズル場合ハ遠フケレドモ一旦生ジタ以上ハ其效力ハ同じコトデアル、其レ故ニマムデ民法ノ留置権ト商法ノ留置権ト遠ブト思フト大キニ間違フ、尙ホ法文ノ上ニ於テハモウ一つ遠ブコトガアルヤ

クニ見エマスケレドモ是ハ本當ハ遠ニ爲ラヌ、商法ニハ但書ガアル「但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラストアル、民法ニハサク云フ規定ガナインレデ民法デハ別段ノ意思表示ヲ許サヌノデアルカト云フ疑ガ起ル、是ハナウデハアリマセス、民法デモ留置権ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スルコトハ無論出來ル、別段ノ意思表示ト云フノハ即テ其レナシンデアル、別段ノ意思表示ガアレハ留置スルコトガ出來ナイトアルカラ詰リ留置権ノ全部又ハ一部ノ拋棄デアル、其レハ商法バカリデナイ、民法デモ無論出來ル、去ナガラ實際民法デハサク云フコトハ先づナカラウト思フ、債権ガ物ニ關シテ生ジタ場合ニ限ラア、時計ヲ修繕ニ遭タウシテ言フニハ此時計ヲ直シテ吳レタラ幾ラノ修繕料ヲ遣ラク、其修繕料ヲ遣ラナクトモ留置権ハ行フテ吳レルナト云フ、譯ガナイ、サウスルト初カラ履行シナイト云フ、コトヲ人ニ言フヤウナモノズ、サウ云フコトハアリ得ナイ所ガ商法デハナウデナイン範圍ガ廣イカラ、債権ト物トノ間ニ何等ノ關係ガナインデモ留置権ガアリマスカラ、時ニ依ルト或商人ガ日ヲ限リテ注文ヲ受クテ居ル、其注文ノ供品ヲ他ノ商人ニ託ヘテ貰フテ貰フ、サウシテ自己ノ所有ニ歸シタ所デ他ノ商人ガ

速、債權ヲ持テ居ルカラト云ウテ留置ナルト云フト、註文ヲ受ケタ方アハ直
ク速約シナケレバナラヌテク云フの場合ニハ是是ノ品物ヲ自分ノ爲メニ買フア吳
レロ、但留置シテハイケナイト云フ特約ヲスレヨトガアル故ニ此但書ガアル要
スルニ商法ニハ斯様ニ適用ガ多イシ、民法ニハナインカラシレテ商法ニハ規定分
アルガ民法ニハ規定ガナリ、
是ガ留置權ノ條件若クハ場合デアリマス、是ヨリ簡單ニ留置權ノ效力ノ御説ヲ
致シマス。

留置權ハ我民法ニ於テハ物權ト爲テ居ル、即チ所謂物上擔保デアル、物上擔保デ
アル以上ハ茲ニ三ツノ效力ヲ生ズル、第一ハ優先權第二ハ追及權第三ハ不可分
權デアル、順々逐ワテ之ヲ簡單ニ説明致シマス。
第一 優先權 留置權ノ效力タル優先權トハ如何ナルモノアフル、是ガ各國ノ
法律大ニ異ナラニ居ル我民法ニ定メタル所ニ據レバ第一留置權ノ優先權ハ物其
レ自身ニ付テハ存シテ居ルケレドモ代價ニ付テハ存シナイ、其レ故ニ留置權者
ハ競賣法ニ依テ容易ニ留置物ノ賣却ヲスルコトガ出來ル、即チ普通ノ債權者ノ

持タザル權利ヲ持テ居ル普通ノ債權者ハ強制執行ニ依ラナケレバ債務者ノ財
産ヲ賣却シトヘ出來マセス、即チ先づ通常ノ場合ニハ確定判決ガイ得シニカ
ル事訴訟法ニ定メタル強制執行ニ依ラナカレベオヌ、公正競賣ガアレベ確定
判決ハイヲスケレドモ執行文又付與シテ賣ハタケレバナラヌ、總ニ民事訴訟法
ノ強制執行ノ規定ニ依ル所ガ留置權者ヤソバカヨトベオヌ、競賣法ニ依テ直
チニ留置權ヲ賣却スルコトガ出來ル、此點ニ付シヤ時モ間違フタ判決例ガアル
ウズケビドモ其セハ競賣法ヲ能ク讀ム不易ヒ然て點ノ疑モナシ、決シテ確定
判決ナドモ要スベキモノナカニイ利害關係人ガ名又争ヌ場合モ當訴訟ニ爲ル
マスクレバ争ナガル場合ニハ決シテ判決ハイヲ有シ競賣法ノ賣却ハ強制執
行ガオイカラサウダア既成タ云フ利益ハ持テ居ル併シ其方法デ行フキ代價
ニ付テハ優先權ハタゞ、然レバカ無若シ他ノ債權者ニ其事ヲ知テ配當加入ス
申込ンズルト其セハ勝者モバナラヌ、唯實驗庭方精テ不見面者ト稱タ審量
ヲ賣却シトガ出來マスガ未然の債權者モ知悉無ク際間モ代價ヲ取リテ代價

ナモノノデアル、其レダケト利益シカ與ヘガナイ、其代リ物其レ自身ニ付外ハ範體
ヲ優先權ガ認メテアル、留置權者ハ如何ナ候債權者ニモ勝フ他ノ債權者ガ其物
ニ付テ質權ヲ持タウガ抵當權ヲ持タウガ先取特權ヲ持タウガ留置權者ハ自己
ガ辨済ヲ受ケルマテハ決シヲ物ヲ離ガナイ權利ヲ持テ居ル其レ故ニ間接ニハ
是非共留置權者ニ先ニ拂ふキバナラニト云フヨドニ爲ル即チ公賣ノ場合ニ於
テハ留置權者ニ辨済ヲ爲スト云フコトヲ公賣ノ條件ニスルザウンナイト競標
人ガ品物ヲ受取ルコトガ出來ナオ、換言スレバ代價ノ申カタ先づ留置權者ノ債
權ダケフ辨済シテサウシヲアトヲ他ノ債權者ニ波ズル云フコトニ爲ル、其レ故
ニ留置權ノ效力タル優先權ト云フモノ、我民法ノ規定スル所ニ依レバ頗ル強
力ナモノデアル、尙ホ特別ノ場合ニ特別ノ優先權ガ認メテアルコトハ今之ヲ論
ジマセス、其レハ果實ニ付テハ先取特權ガ認メテアルト私共ハ信ジテ居リヤズ、
併ナガラ其先取特權ハ留置權ノ效力トシテ認メテアル先取特權デスカラ普通
ノ先取特權ノ規定ニハ從ハナオ、留置權ト同ジ順位ニ於テ行ハルル、即チ一番先
ニ行ハルル。

第二 追及權 是ハ他人ノ物標ト異カルコトハアリセ、留置物ノ所有者ガ他
人ニ譲渡シテ、其上ニ如何大ナル物權ヲ設定シテモ其レニ對テナシ而モ留置權ヲ
行ス是ガ即チ追及權也、他人ガ權利ヲ取得シ未モ其權利ハ留置權魚目ケハ
ソレデスカラ是ガ取テ追及權デアツク此其ノ留置權入一諸人謀求ニ公賣賣
第三 不可分權 是モ他人ノ物上擔保と變則吾ト合大ノ不スカヌ我民法ニテハ
留置權ノ所ノ規定ニ爲テ居ラア先取特權抵當權質權ニハ之ヲ準用シカズアル是ハ
留置權ニ特別ナルコトデハアリ直ちに、矢張リモ之ニ付テ誤解ガアルトイケカ
イカブチヨント証明シテ質ク留置權ノ不可分ト云フモノト地役ノ不可分ナドト
云フ是故ト同様モモノト思フト大變利害不地役權、不可分ナドヘ性質上ノ不
可分ニテ多々當事者ノ意思テ以テ分フモト出處夫余者ニ反シテ留置權其他
物上擔保ノ不可分ト云フモノト性質ガ之ノ看許ナシ人情然夫今唯之ノ發タル方
ガ擔保トシテ強力ガナシテスカラソヒテ法律ハ勿タ大金無又本則ト謂居ル
即チ債權者ガ債權ノ一部ノ辨済ヲ蒙クマシテモ留置權全般無事不展ハ耶、則
物を離セ仕テ留置權ガ存シテ居ル物不一部ガ滅失致シテ斯名天其殘部ガ債權

ノ全體ヲ擔保シテ居バ云フアが此木可敷ド雲夫アシテ、其シ其の處事ト對照
ト、擔保リジテソシテ置ク方ガ強カテアルオナガ、則チ賃者ハ其不詳分
ナ、擔業スルコトガ由來マヌジヨガ地役ナシノ場合、大變遠ナ時、留置物ガ一
ツナ、ナシニ以テ、下云ナシラナ場合、半續人解消ヲ受ケバ、物ヲ一ソ遮
スト云ラキタ、シトガ出來ル財產權ナリ、是テ、其の處事ヲ禁斷法律ノ一部ノ擔業對
許ス全命ノ擔業テ、モ許ス例ヘ、時計ラニシ修繕ニ遭ダニ、ノ修繕費トジ
メ他ヘバ、三回ナシ、二回ヲ請求スル勿論申ノ時計ニ付テ過テ乙ノ時計ニ付テ過
ラト別別、債權ガ生ジテ居ラヌ場合、アル故ニ、ラノ時計ニ付テ、ソノ法律
行為ガナラ、場合、アル此場合ニ於テハ、二回ヲ拂フヤナハニツノ時計ニ付、留置
ルコトガ出来ル、併テガタ時計屋ノ考テ、三回持テ行イタキミシゾンテ、タケ
御返シ申ジマヌト云、ナシテ返シテモ差支ナイ、其レハ留置權ノ一部ノ拠棄ニ爲ル質
權、抵當權ノ如キ法律行為ニ因テ設定スル者、ハ初カタ、テ、云其條件ヲ設定期
ムニ、留置權由來、而例ヘバ、土地ナ千坪、抵當ニ及レテ、シテ金ヲ、萬圓、借リル、
ケンテ、特ニ約シテ言ニシ、債務ノ内拂ナスル場合ニハ、其支拂タ金額ニ相當ス

ル擔保物ハ返ス、即テ抵當權ヲ一部消滅セシムルトスウ云フ、約束ヲシラモ構ハ
ヌ、五千圓持テ、行ケバ五百坪、ダケノ抵當權ヲ消滅セシムル、三千圓持テ、行ケバ
三百坪、ダケノ抵當權ヲ消滅セシムルト云、フコトニシテモ、敢テ差支ナイ、サウ云
フコトハ、隨分アル、極タ廣イ目的物ヲ擔保ト致シマスナラバ、サウ云フコトガア
ベ、此意味ニ於テ留置權ハ不可分デアル。

是ガ即テ留置權ノ一般ノ效力アリマス、他ニ留置權ニ關スル細目ハアリマス

ケレドモ、其レハ法文ヲ能ク讀メバ、直グニ分リマス

蘇バ、何者、又、誰々ニ該

ノ、本第ニ、後項スル、即テ、付テハ、此クルカタナム、其後、シテ、某ノ主張ノを既
示之、了然ス。

第二、前點第一項、前項又ハ、向合子入居チカタナム、其後、シテ、某ノ主張ノを既
示之、了然ス。又、各款オノ内、是率ニ、某者ハ法文ヲ、見通シテ、其後、シテ、某ノ主張
ノを既示之、了然ス。又、如ク、前項ノ例ヘ、判決書ニ、該文ナシ、則テ、該文

物へ所有者ノ爲メニ死スノ時晉の傳テ國ヲノミテ得テ行
キテ是事其ノ本法文ノ指掌大輔ニ長使テスノ所計ノ情ノノハ
愚人相モ皆若相モ一聲ノ樂也安モ又人道モ猶猶焉國大之職目付モア
外誠意相子誠天爵無窮ノ本源發モ不以國事之任也
右ヨリ外國長丈ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御
三百秋矣ノ然常謝モ節焉モハ無トセイテセイテ天無難天無支生天無死云
五五五國盡モ身モハ五百舉モ下モ皆常謝モ重話モタモハ三十國盡モ常謝モ
後繼君夢ヘ裏ニ御モ常常謝モ一語當點カバニシテ御モ常々御東モハモテ謝ル

くテテイ當考乎雖ノ御羅福ハ雖ノ御ノ長御ノ御羅福モハ御ノ御ノ御ノ御
命令頭犯罪ノ定義ニ付ラソ講演國文ハ古賢學士ノ御羅福ハ御ノ御ノ御
モ御ノ御モ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御
文聖ヨリ出モ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御
德又ハ天也ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御
古賢學士ハ其著刑法新論ニ於テ犯罪ヲ左ノ如ク定義ナリ曰ク舊考入公錄モ
ノ犯罪ヲ説明スル元付ヲハ缺クハカラナル條件諸シテ予輩ノ探モ所ノ定義モ
亦之ヲ加フモ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御ノ御
第二論點タソ禁制又ハ命令大抵語元付ヲハ如何ナルモノ禁止法ニシテ又如
タソ候文ヲ指示キル者ノ如ク論述セミ例ハ刑法第二百九十四條ニ「故意ヲ

以テ人ヲ殺シテ少者ハ故意ノ罪ト爲シ云云下規定シテハ人ヲ殺ス勿論又
禁止條文ニシテ又其第三百六十四條ノ「子孫其祖父母父母並妻シ衣服ヲ供給セ
及其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者云云」アル據定シ必要ナル奉養並爲セトノ命
令條文ナリト謂フカ如キ是ナリ此ノ如ク法律規定ノ外形ニ據リテ以テ一切ノ
法條ヲ禁止法ト命令法トノ二ニ區別スヘシドソ説廣ク行ハレタリ然レドモ予
輩ノ信スル近世ノ學說ニ依レハ此等ノ條文ハ一概禁止法ニシテ又一概命令法
ナリト假定スルモ禁止ノ反面ニハ必ス命令ヲ含ミ命令ノ反面ニハ又必ス禁止
ヲ含ムモノナリ例ヘム人ヲ殺スヲ禁止スルコトトシ場合ニ依リテハ衣食ヲ給セ
由ト云フ命令ト爲リ又奉養ヲ命令スルコトトシ場合ニ依リテハ有害ナル衣食ヲ
給スヘカラスト云フ禁止ト爲ル故ニ犯罪ノ定義ヲ述フルニ當リ刑罰法合ナル
文字ヲ用フル以上ハ禁制命令ナル語ハ亦其中ニ包含ス所モナリトスルモ敢
テ支障ナキモノトス即チ故ラニ或條文ハ常ニ禁止的ニシテ又他ノ條文ハ常ニ
命令的ナリト解スルハ誤ミシテ此點ニ關スル古賀學士ノ議論ハ判明ヲ缺キモ
ノナリト信ス予輩ノ此議論ハ彼ノ行爲ノ外形ハ積極的ナルモ將タ又消極的ナ

ルモ即チ作為シテモ不作爲トモも總テ犯罪ノ行爲タルコトヲ得トノ觀念ト同
シク全タ表裏相密著ノ關係ヲ有スルモナリテハ
第三論點タル禁制又ハ命令シタル事項ノ違反大凡諸ニ付テハ予輩ノ意義ヲ
了解スルニ苦ム者ナリ所謂事項トハ如何ナガコトヲ指示スルヤ今殺人罪ノ例
ニ付テ言ヘハ人ノ生命ヲ奪フベキ積極ノ舉動換言スレハ積極的ノ殺人舉動也
法ノ禁制スル所ナリ又人ノ生命ヲ殺フベキ積極的舉動例ヘハ義務者カ友交食ヲ
與スベキハ法ノ命スル所ナリ故ニ刑罰命令ノ禁制シ又ハ命スル事項ハ其法令ニ
列舉セル積極又ハ消極ノ舉動ニ外ナラヌ果シテ然ラバ禁制又ハ命令シタル事
項ニ違反スル行爲トハ如何學士ハ違反スル文字自體ヲ付テ精細ナル説明ア
ヘツルカ故ニ其眞意ノ在ル所ヲ知ラスト雖モ惟フニ左ノ二者中其一ニ出テテ
ルヘシ即チ一ハ其禁シ又ハ命シタル行爲ヲハシ又ハ爲テス上ノ意ニシテ他ノ
一ハ當ニ其禁シ又ハ命シタル行爲ヲハシ又ハ爲テサナギコトヲ謂フノモナラス
不法ニ之ヲハ爲シ又ハ爲テサルコトヲ謂グノ意ナリ余若既之ヲ第一ノ意義ニ解
スルトキハ其定義ノ中ニ不法ナル意義ノ文字ヲ示ナヌダハ定義をジアハ明カ

ニ一ノ重要大ル要素ヲ遺脱シタルモノト謂ハサムニカラス試ニ殺人罪ノ規定
ア見ルニ唯人ヲ殺シタル者ト云ヘルニ過キサルヲ以テ刑罰法令ニ示シタル行
爲ヲ爲ストノ意ナルトキハ唯人ヲ殺ストノ事ノミニ止マル然レトキ縦合人ヲ
殺スモ不法ナル分子ノ加ハルニ非ツレハ決シテ罪ト爲ラス彼ノ官吏ガ死刑ヲ
執行シタルカ如キ官兵カ賊兵ヲ就殺又ハ慘殺シタルカ如キ或ハ正當防衛トシ
テ人ヲ殺シタル場合ノ如キ共三人ヲ殺スモノニシテ第二百九十二條以下第二
百九十條ノ刑罰法ニ示シアゲ行爲ナリト雖モ這ハ不法ニ非ツル可也以テ罪ニ非
ス他ノ總テノ犯罪亦同シ今無權利者ガ財物ヲ強奪スルハ強盜罪ナル也公用徵
收ノ爲メニスル強奪ハ強盜罪ニ非ス然レトモ其強奪タルヤーナリ遺失物ノ拾
得ヲ如キモ官吏カ其職務ヲ以テ之ヲ押收スル場合ハ罪ト爲ラスシテ放火ノ如
キモ戰争ノ爲メニスル場合ハ亦罪ト爲ラス此ノ如ク單ニ刑罰法令ニ列挙シタ
ル外形ヲ有スル行爲ト雖モ其不法ニ非ナルモノハ罪ト爲タルカ故ニ若シ學
士ノ所謂違反ナル語ノ意義ニシテ單ニ法文ニ示ス行爲ヲ實行スル行爲ト云フ
前述第一ノ意義ナランか不十分ナル文字ナリト謂ハサルヘカラス或ム若シ學

士ハ之ヲ前述第二ノ意義ニ使用シテ單ニ行爲ヲ實行スルニ止マラス更ニ不法
ノ分子ヲ具ヘタル場合ヲ指稱スルモノナントスルトキハ子董ノ採ル所ノ學說
ト同一趣旨ニシテ單ニ言辭ノ爭タルニ過キサルモノトス然ルニ學士ハ他ノ說
明ニ於テ不法ナル分子ヲ一般要素ト爲スノ必要ナシト論述セルヲ以テ子董ノ
所謂犯罪ノ觀念トハ反對ナリト推測セオル而シテ共理由トシテハ權利實行ニ
出フル行爲ノ罪ト爲ラサルハ當然ナルカ故ニ之ヲ犯罪ノ條件ト爲スノ必要ナ
シト云フニ在ルカ如シ凡ソ定義ニ掲クヘキ條件ナルモノハ總テ當然ノモノナ
ラサルヘカラスシテ不當ノモノハ條件トシテ之ヲ定義中ニ掲クヘキモノニ非
ナルナリ元來定義ナルモノハ事又ハ物ノ簡單ナル概括的説明ニ過キス故ニ
犯罪ノ如キモ極端ナル短き説明ヲ以テセハ刑法全典ヲ舉示スルノ外ナシ故ニ今假想刑罰法令ナ
ル四字ニ代フルニ「身體・生命・自由・財産・名譽ヲ剥奪スルコトヲ制裁トシ議會ノ協
賛ヲ經テ主權者ヲ頒布シタル國民行爲ノ準則ナル」一句ヲ以テスルモ固ヨリ起
意ニ於テ誤ル所アラズシテ其字句ノ長短精粗ノ如キハ定義トシテノ當否ニハ

闇セナル所ナリトアス唯何レノ點ヨリシテ之ヲ觀ムキ當然ノ條件大ルカ故ニ之ヲ定義ノ中ニ加アルノ必要ナシト云フカ如キハ正當ナル議論ニ非ナルコトア信ス。

第四論點タル行爲ナル語ニ付キ學士カ説明セラル所ノ前後ノ比考不ルト行爲ト名タルハ禁制又ハ命令ニ違反スル其違反ノ事實ノミヲ謂フモノニシテ彼ノ責任能力ノ問題及ヒ故意過失カル責任要素ノ問題ハ犯罪ノ要素ニ非スシア責任問題ト犯罪ノ構成條件トヲ混同スル説ノ如キハ採ルニ足ラスト論斷セラレタリ今此説明ノ當否ヲ論スルニ付テハ少シク責任論ノ發達ヲ述ヘタルヘカラス。

往昔歐洲北方ノ風俗殊ニ日耳曼人ノ國法ニ依レハ犯罪ヲ以テ專ラ他人ヲ害スル有害事實ト看做シタルモノナリ故ニ其故意ニ出テタルカ過失ニ出テタルカ又其孰レニモ出テタルカ(不可抗力ノ場合或ハ幼者ノ行爲ニ係ル)カ狂者ノ行為ニ係ルカト云フカ如キ責任條件ノ事ハ一切顧ミサリシ實例アリ我日本ノ上古ニ於テモ亦之ト同一ノ風俗アリヲ大抵ノ言ニ白人ト曰ヘルハ俗ニ自殺ト云

ヲ皮膚病ニ罹シル者ナレハ獨創ナシテ其之ニ罹ケルアガハ其故意又ハ過失ヲ出テナルモアモ少カダナルヘシテ雖毛等シク有罪ナリトスルモノニシテ純然タル外部ノ事實ヲ問セルモナリ又羅馬ノ或時代ニ於テハ意思ノ問題ニ重キタ置キ彼ノ聖書ニ所謂心ニ犯シタル者ハ身ヲ以テ犯シタルニ同シトノ思想カ勝ア占タル外部ノ事實ハ既遂ニテモ又未遂ニアモ又或ハ同シ關係ニ於テ實害ヲ生スメセ實害ヲ生セタルモ刑事责任ハ同一ナリトノ思想行ハレタリ此南北ノ思想ノ歷史上ノ發達ト千七百年代(文學革新時代ノ文學革新家ノ意見トノ混同ニ因リテ外部ノ事實ノ意思ノ問題ト其間に輕重ヲ立ツルコトヲ得ニ共ニ相應ルヘカラナル要素ナリト云フ如クニ責任條件ヲ以テ今日マテ犯罪條件ナリト論エル學者ノ極メテ多數ナル所以ニ付テハ極メテ複雜ナル理由ノ存スルモノナリ其人ニ評定ニ付セバ出セバ即ち實害ヲ有セバ勝ア也實害ヲ有セバ即ち此ノ如キ歴史上ノ問題ヲ全タル分離シテ論ズルモ若シ責任能力及ヒ要素ヲ論メコトナシシテ單ニ外部ノ事實ヲ犯罪ナリト論スル下キハ尋常一樣ノ出來事矣矣地獄下天ノ行爲ト名カセキ電ノトノ間ニ何等ノ差別ヲモ見出スコトヲ得

夫ルカ義子奪武モ甲志家音落雷ノ爲ニ燒失シ又乙ノ家燃放火屋爲ニ燒失
タリト假定スヘヨ共其家ノ燒失大抵事實ニシテ責任要素ノ論ヲ參照セラム
者ハ此間無何等ノ差別ヲモ見出スコトヲ得ヌルシ均計外部ノ事實ヲ取ト
雖モ其人ノ行爲ニ出アタリト謂フコトヲ得ルヤ否ヤノ點ハ即チ責任論ニシテ
他語不以テ論ヘハ責任論ハ或事項晉人ニ關スル問題ナル立又又人ニ關スル問
題トシテ取扱フベカラズル也メナカニ區別スルノ根據ナル也故ニ犯罪ナズ
國法上ノ關係ニ於テ常時責任要素ヲ除外シテ之ヲ言フコトヲ得ヌル事人ト
ス道里土也逐段イテ百事ノ文學事思體外ニ文庫書藏入者民人也諸聞キ國
又現行法ニ於テ其第七十七條第一項乃至第三項ニ規定シタルモノハ即チ責任
要素久ル故意又ハ過失ノ規定ニシテ其第七十八條乃至第八十三條ニ定ムル所
ハ責任能力ニ關スルモノナカニ學士ハ之ヲハ無罪シテ犯罪ノ條件ニ非スト言セ
ルカ而シテ之ヲ缺ク者ノ行爲ハ無罪ナリドハ法ノ明言スル所ニ非スカ又學
士ハ民法ニ於テ故意又ハ過失ニ出アサル不法行爲ハ賠償義務ナシト云フ規定
ヲ如何ニ解釋スルカ彼ノ前陳「不法」ナル分子ヲ犯罪構成條件ニシテ明言ス

ルト否トハ定義中ノ「違反ナル文字ノ意義如何ニ依リテ別ニ深ク反對スヘキコ
トニ非ス然レトモ責任問題ハ犯罪構成條件ノ問題ニ非ストノ論ニ至リテバ予
輩ハ断シタ之ニ反對セサルヲ得サルナリ

元來責任ナル文字ハ種種ノ意義ヲ有シテ或ハ法律ノ制裁ナル意義ニ用ヒラル
ルコトアリ例へハ民事責任又ハ刑事責任ト云フトキハ多クハ民事制裁又ハ刑
事制裁ノ謂ナリ又ハ之ヲ義務ノ意義ニ用フルコトアリ例へハ教育家ノ責任、
國務大臣ノ責任又ハ宗教家ノ責任ト云フカ如キ場合ハ義務ヲ指示スルコト多
シ而シテ學士ノ所謂責任ナル語ハ義務ノ謂ニ非サルコト明瞭ナリ若シ制裁ノ
謂ナリトセンカ彼ノ刑罰ナル刑事制裁ハ犯罪ノ成立シタル上ニ論スヘキ問題
ニシテ實ニ學士ノ言フ所ノ如シ然レトモ意思ノ問題ハ犯罪成立後ノ責任問題
ナリト爲スニ至リテハ前陳ノ學理ヨリシテ之ヲ觀ルモ亦之ヲ刑法第七十七條
所謂不論罪ノ明文ヨリシテ之ヲ觀ルモ誤レルモト謂ハサルヘカラス而シテ
過失ノ論及ヒ責任能力ノ論ニ至リテモ亦同一ナリトス

義大へ當事者賣出請代へ請へ更りモチ本國同一セリテ本
領主不當罪へ即交ヨリセモ之に據れ未開ノハシヘイ前へセムヘキモヘ此モス酒ノ大
き不當之延モヘ而斯ハ學問へ學問モセモ大丈識ハ教之へ所者者十才前
ニロヘ實ニ學士へ言へ視へ取セテ然ノイテ意思へ問題へ該籍者成員ヘ皆其國國
籍ナリモ此人ト雖モ自己有ヌヨリ多クノ権利ヲ他人ニ譲ヌショトヲ得ズ
而モ之大學士へ附屬資格モ其間ハ附屬者モナ開國
國者大臣ヘ此上記ノ宗姓者又貴族有權者モ同様
其國籍ナリ又身ヘ之ニ餘計ハ意論へ訊ヒルニテ足跡ハヘ難音深ハ之
セイヨリ附ヘヘ勿弗貴且又ヘ所事貴翁イタシシモヘ甚モヘ其事體狀又ヘ附
系表者ナヘ文字ヘ附辭へ應接又音口モ源ヘ該將ハ歸誠又ヘ為津井子根日
麗ヘ酒口モ之ニ氣後ナセムヘ得矣ハ云々

イニ此又然ヘナホ直道間歌ヘ異罪辭謝請候ヘ開誠ニ其大才ヘ請ニ通リモハ
ムナ否ナヘ宗跡中ヘ遷式大文字ヘ應接威母ヘ殆モ氣後大ヘナ
メノ

Nemo plus Julius ad alium transferre potest quam ipse habet.

諸君 諸君大いに若狭マリヤ
犯罪人引渡ニ關スル准問 留ムルナリテ本國へ其間事ニ關シモ良
好

此處セモ其間事ニ關シモ良好ハシ法學士山縣雅之介

此處セモ其間事ニ關シモ良好ハシ法學士山縣雅之介

諸君 諸君大いに若狭マリヤ
犯罪人引渡ニ關スル准問 留ムルナリテ本國へ其間事ニ關シモ良
好
生徒 強引渡スコトナシ唯放逐ス所コト又得ルモ上アゲノ事モ其間事ニ關
事
外國ノ犯罪人未自國版圖外居第放逐せヨモナホ國法律國結果訊ハ行
此分ニ依リ之ヲ行ヒ得ヘク又犯罪人ノ引渡ハ國家間ノ合意ニ因リ行ハルヘ
キカ故モ乙國モ甲國ノ犯罪者ヲ自國ニ於テ逮捕シ之ヲ甲國政府焉引渡すシ

諸君 甲國政府ノ諸事ナキ場合ニ於テ如何シニシカモモ其間事ニ關シモ良
好

八七

トスカ場合ニ申國政府が之ヲ受取ルコト氣ヲ承諾ス故モ申國爲引渡事成立シ
特ヘシ尙レバ日本ノ説ヘミ又恐犯人へ通達ヘ關係開人合意ニ因リ説ヘハ
補附 以上ノ場合ニ於テ乙國ガ其引渡ヲ提供スルト否爾以乙國法法律ニ於テ
申政府カ之ヲ行ヒ得ルト否本ニ依ルヘタ又經合之ヲ行ヒ得ヘキ場合ニ於テモ
獨自國ノ政略ニ基キ之ヲ行リト否本ハ任意サルコトナレトモ犯罪者ノ本国ナ
ル甲國ハ其引渡ヲ提供セラレタル場合ニ之ヲ受取ルノ義務アリヤ

生徒 比自國人ナラハ其義務アリ本ニ固モ其那根性又云國政府モ然モ假使
講師 何レフ謂モ自國ノ犯罪者ラシテ刑罰ヲ免シシムル所欲セナル故此其
罪犯人ヲ引渡フ承諾スルキコトナレトモ各國ハ獨立權ヲ有シ又犯罪ノ引渡
ハ雙方ノ合意ニ因リテノミ行ハルヘキカ故ニ法律上ニ於テハ引渡ノ承諾ヲ
義務ナリト謂フコト能ハナルヘシ然レ等モ乙國據之ヲ追放シ本國ニ返還シ
タルトキハ甲國ニ於テ之ヲ受取ルノ義務アルコト疑ナシ

講師 甲國ヨリ其犯罪人引渡ノ請求ヲ爲シタルトキ乙國ハ其請求ニ應シテ引
渡ヲ爲スノ義務アリヤ

生徒 偵約ニ定メハ場合ノ外此義務ナシトス唯好諧上之ヲ引渡スコトアルハ
格別ナメ

其由來

講師 此點ニ付テ古事記學者ノ說ヲ大別セハ三種ト爲シ得ヘタノラブセビドウ
フ「ジョン・ダニット」「マルテンス」タリニベシ「ストーリー等ハ條約ノ存在ス
ベニ非ナヒエ引渡ヲ爲スノ義務ナシトシ「グロビス」「ヴァーラ」タリ所等引
渡ヲ義務ト認メタルモノノ如シ然ラバ「ブルンデュリ」ヲ始メ大陸學者中ニ六
犯罪人引渡條約ニ依ルノ外一般社會ノ章程(Le règlement)ヲ保フコトニ於
テ引渡ヲ要スル場合換言セハ重大ナガ犯罪ニシテ其引渡ヲ要求スル國家ノ
刑事法廷カ公亭及ヒ博愛ノ主義ニ離脱セコトナク其犯罪者ヲ審理裁判スル
ニ付キ依佑ノ處置ナキ保障アルニ於テハ引渡ノ義務アルモノトセリ然ラバ
國家カ他國ノ犯罪人ヲ同國内請求ニ應シテ引渡スノ義務アリト爲ス者イ釋
由トスル所ノ如何

生徒 國際公法上ノ義務トシテ國際關係上ノ秩序ヲ棄ガ者ニ引渡スル處分キ
シムゲイ必要百々カ故ナリ

國際公法

私個人點迄ニ關する問題

八九

講師　其他ノ理由ヲキ

生徒　凡ソノ犯罪ハ其犯罪行爲地ガル國家メ罪科ナルト同時ニ人類社會ノ秩序
ヲ紊スノ行爲ナルカ故ニ國際團體ニ於テ均シク社會ノ犯罪者ヲ難防、鎮壓ス
ルニ付キ其通ノ利害關係ツレ有シ諸國ハ相互的ニ犯罪ノ懲歎ニ協力シテ以テ
人類社會一般ノ幸福ヲ増進スヘキ義務ヲ負ヒ國際團體ノ正義上及ヒ利害關係
上成ルヘタ各國ヲシテ其犯罪者ヲ刑罰セシムルニ並力スヘタ犯罪者ヲシ
テ刑罰ヲ免レシムルニ社會一般ニ危險ナルヲ以テ之ヲ刑罰セシムルノ必要
アリ此故ニ國家ハ獨立權ヲ作用ニ依リ自國內ニ如何ナル者ヲモ在留セシメ
之ヲ保護シ得ヘシト雖モ犯罪者ヲ保護スルハ國家ノ庇護權ヲ不當ニ擴張ス
ルモノト爲ルヲ以テ國家ハ犯罪人ヲ本國ヨリ引渡スヘキ正當ノ請求アルト
キハ之ニ應スヘキ義務アル所以ナリ

講師　犯罪人ト雖モ國家ハ本國ノ請求ニ應シテ其引渡ヲ爲スノ義務ナシトス
ル學說ノ理由如何

生徒　領土權ニ基ク結果ナガ出義理セヘキ大體誠然士々又伊達久ニイテハハ

講師　國家間ニ犯罪人引渡ニ付キ條約上ノ規定アリニ非ナレハ他國ヨリスル
引渡ノ請求ニ應ヌルノ義務ナシトスルハ現今一般ニ是認セラル法則ニシ
テ其理由トスル所ニ同犯罪者ハ其現ニ在留スル國家換言セハ之ヲ庇護シ居
タル國家ニ於ケル公ノ秩序ヲ紊シタル者ニ非ス凡テ各國ノ刑法ハ其國ノ安寧
ヲ維持スルヲ目的トシ同法ノ第一義ハ領土的ノモハニシテ國際的ノ性質ヲ
有スルニ非ス此故ニ他國ニ於テ重大ナル犯罪トシ嚴懲ニ之ヲ刑罰スル行為
モ自國ニ於テ之ヲ嚴罰セナルコトアルト同時ニ自國ノ重大ト認ムル同一
行為ノ犯罪ヲ他國ニ於テ然ラスト爲スコトアルノミナラス一國ニ於テ犯罪
ト爲ス事項ヲ他國ニ於テハ犯罪ト認ヌナルコトアルヘタ又甲國ニ於ケル刑
法上ノ罪人カ甲國ノ犯罪者タルニ止マリ乙國ノ刑法ニ觸レサル以上ベ乙國
ノ犯罪者ニ非ス然ルニ若シスル甲國ノ犯罪者ヲ乙國ニ於テ引渡す爲スヘキ
義務アリトスルニ即チ乙國ハ自國ノ主權即テ庇護權ヲ害シテ中國法廷ノ用
フ爲スヘントスル所以ニシテ國際間ノ條約アルニ非ナレハ乙國カ斯ル義務
ア負フヘキモノニ非ナルモノト謂ハテルヲ得ス

講師　甲國ノ犯罪者カ乙國內モ在リ場合ニ於テ甲國ヨリ引渡ノ請求アルニ當
フ乙國ト甲國トイ間ニ犯罪人引渡ノ條約規定アリトキヤ其規定ニ基キ之ヲ
引渡ヲ爲スヘキコトハ乙國ノ爲スヘキ條約上ノ義務セシテ條約規定オキ場
合ニハ其請求ニ應セサセコトヲ得タ若シ其請求ニ應シテ引渡又爲ストキ
ハ好意上ノ行爲トスルノ外カ乙國ハ其獨立權ノ作用ニ依リ自國ノ任意而
其請求ニ應スル所妨ガニ而シテ條約ニ基ク引渡ト好意ニ因リ引渡トス間
ス其引渡ヲ爲西ニ付キ現行慣例法上其犯罪者ノ國籍如何ニ依リ其間ニ區別
スルコトナキ文否セシム

生徒　何國人タクノ間カス其引渡ヲ爲スモルトス又如種々之種類ハ御存知有
講師　引渡ヲ爲スルトビテ國ハ自國人民モニ一般ニ引渡スヘキ事例ナリトキヤ
生徒　自國人民ハ引渡スル且政事上ノ犯罪人ハ之ヲ引渡シ難ケヌ通常トス
講師　何故ニ自國人民ハ之ヲ引渡シ難ケヌか謂ふ事例有也此種事例ハ
生徒　國家ニ其臣民又統御セバ權利又有ス令他國其法律ハ自國人々努力ト
フハ他國ニ在リ之故也然則ノ他國ニ於テ罪又犯ニ至自國ニ歸來シタ辰

生徒ハ自國ハ其者更絕對ニ支配スルニ若ク得ルカ故ニ引渡サナルナリ

講師　現今ノ慣例卡託タ他國ニ於テ犯罪者カ自國人民ニシテ自國ニ歸來リ
スル場合ハ之ヲ刑罰シムハ爲其他國ト引渡シ莫ル更通常トス其引渡ヲ爲
對象ルノ理由ト認定スル所ハ一、國家相互間ニ於テ隔離ヨリシテ互
他國ノ裁判ヲ信用スル事ト未だ完全ナラカル同时ニ自國國民ヲ他國カ刑
罰スル事トヲ層シテナル所アルト一ハ自國人々保護スルト同時ニ自國人
小民ハ國家ニ對シテ絕對的服從關係ヲ有スルカ故ニ他國ニ於テ犯罪ト雖モ
必要アル上キテ自國ニ於テ刑罰シ得ヘキカ故ニ之ヲ他國ニ引渡シテ處刑セ
ン所シノ必要ナシトスルニ在リ然レトモ此理由中第一點ニ付テハ近世列國
間ニ於テ相互通ニ其裁判ヲ信用シ之カ爲メ犯罪人引渡條約ヲ締結スドヨト
年增加シ又條約ノ存在ナル場合ニ於テモ苟モ犯罪人ノ引渡ヲ爲サンテス
ル以上ハ固ヨリ請求又裁決ニ信用ヲ置タニ基クカ故ニ自國人民ニ限ルト
犯罪者ヲ引渡ヌサルノ理由ニ據リノモ又之ヲ保護シテ其刑
罰又免ゼシム次モ不當之保護ト謂ウサル又傳文第三點ニ付テハ凡テ犯罪

而其行爲地ニ於テ之ヲ審判スル者犯罪大證據又才發三萬集外ビノ便宜アリ
オ自國人民者誰モ相互的ニ其引渡ヲ爲スハ却テ兩國ノ便益ナシムニナ及不
犯罪者ニ於テモ之ヲ爲メ正確力ハ裁判ヲ受タルの事ヨリ其利益ナル故ニ引
渡ヲ爲メナルノ理由ハ亦有力ナリト謂フコト能ベス此故ニ一千八百九十年英
米條約ニ於テハ互ニ自國人民ヲモ引渡スヘキコトトシ近來ノ學說モ亦同一
ノ傾向ヲ有スヤシトスハニ過然トシテ英國中華士邊利竹ヤハ英國御國
講師在政事上ノ犯罪トハ如何而解ニ深シテ英國御國中華士邊利竹ヤハ英國御
生徒ハ我刑法上ヨリ言ヘハ國事犯上ハ憲法ヲ變更シ又ハ政府ヲ顛覆セシ事ヌ
ルノ犯罪ヲ謂フハシタモハ英國人ノ邊境又ハイギヤ御國御國人ノ邊境又ハイギヤ御
講師在政事上ノ犯罪者ハ現行國際公法上他國ニ其引渡ヲ爲メサアラ法則トシ
國家間ノ犯罪者引渡條約ニ於テモ之ヲ引渡ノ例外遂爲スノ通則トニ然ルニ
若ヒ甲乙の兩國條約ニ於テ相互ニ其政事上ノ犯罪者ヲ引渡スヘキ事ト約定
シタク成キハ其條約ハ有效ナリヤ否ヤ根本ニ御國人ノ邊境又ハイギヤ御
生徒ハ國際公法上反スルノ條約ナルカ故ニ無效ナリ

講師用無效非文凡テ國家間ノ條約ハ當事者間ニ在リハ當然無効ト云ヒ得
ハキ無人始ニ在者犯罪人引渡ニ付キ國家間ニ政事上ノ犯罪者ニ引渡スベキ
ニシテ約定シタク成キハ其義務ヲ負ス但ク條約文ハ嚴重カル形式ヲ以テ自
ヲ約定シタル所合意ハ更ニ新立合意ヲ以テ廢止スルニ非ガレハ無効ト爲相
コレ能ムテ一端ニシテ日本吉田前内閣大臣ハニシテ其大失

講師用我行人慣例上國家へ政事上ノ犯罪者ヲ引渡スルハノ通則ト耳ルハ何故
ナリヤ試験官書ハ此ニ見透シ候ミテ日本吉田前内閣大臣ハニシテ其大失

生徒ハ犯罪ノ性質上各國共通犯犯罪ニ非ス一國ニ於ケル犯
罪ハ政事犯也當事犯も均シテ各國共通犯犯罪ニ非ス然ラハ政事犯ニ關シ他
ニ理由ナキオ全才爾ハセタマサ特大要大要ニ此種ニ付キハ無効ト爲相
生徒ハ犯事所爲ハ乙國ニ就テ其無之實體を皆キ所爲タルコトアリ他ノ如ハ國
事犯實然道徳上雖ニキセナ羅非別アカ放ナタヨホテテニ元罪人又開那莫く

諸國民族體質參照同一非スモ雖表同々然モ亦ナキニ非ス又國事犯ノ性質及モ行爲ム他國ニ於テ實體ヲ違離ト否或莫大ムセヌア所ト同時國主他國ニ於テ謀叛懲罰道徳上於異國憎惡タヘキ事メリ固斯處場合ニ於異ル右解説明ム不完全ト謂ハナルヲ得ス要スルニ此點ニ付テハ種種議論アル所アル實驗場ア爲夢タルシナゾ英國説明テ崇寧ニ非ム然モヘダ那露ニ開シ出制(一)國事上之犯罪其國家之憲法及モ政事上人權機(Sovereign polities)反對無事ナル事ノ為眞故云倒臥ニ取リ危險矣ルモノニ非ス

(二)普通犯罪者ハ互ニ引渡フ爲シテ之ヲ刑罰セシムルハ諸國一般ノ安寧ヲ顧慮實體ナラバ國ル所以ナレサム政事犯亦引渡本國アシテ之ヲ刑罰セシムルニル諸國一般カニ利害關係ヲ有スルモノニ非ス

(三)引渡シ請求タル國ト被請求國ハ主張異ニスル非ドアハ併々バ本國ニシテ隸犯罪ト爲ルモ他國ニテハ却テ同情ヲ憲ク場合アリテ斯夫モ以て自

右互述入タル理由基キ正義博愛及モ友誼上引渡ス爲烈火林木即所必要が故説引渡ス義理大氣モ自是論也然れど當事客間ニ至リテハ當然無致ト云コト

政事上ノ犯罪者ヲ現す諸國力引渡ス爲シタルヲ通則ナホルニ付キ其理由ナム諸學者ノ説明ハ「般ニシムテリソノ示シタケト上其航ヲニシルヲ政事犯ハ本國ニ限リタル主權ノ爭奪者ヲ政治組織ノ變更ノ目的トシ國家ニ自主獨立ナシ結果トシテ其内政ヲ如何ニ變更シ何人ノ手ニ於テ主權ヲ行使シ又政治組織ヲ如何ニ左右スルヤ其國ノ任意元シテ他國ハ之モ獨シテ是非曲直ヲ判定シ之ニ容喙スルノ権利ナク隨テ政事犯ハ本國ニ於テ之ヲ刑律上ノ犯罪ト看做スト雖共其成效スルキヘ却ク犯罪者ノ手ニ同國ノ政事犯主權スルニ至ルヘク又其主義及モ企圖ト各ル所を皆于他國ノ同意ヲ憲クモノアハノミナラス本國ニ取リテ其改革ノ必要ト視ルヘキモノアルカ故ニ少クモ此點ニ付テハ普通一般ノ犯罪ト其性質ヲ異ニシ他國ハ其事件ニ付キ政事又ハ犯罪者ノ何レヲ正當主張ナシカズノ創定スルノ權利義務オク又其意義ヲ發達シテ之ニ容喙スルキ地位無立タクアリトテナムモ子爵國ノ利害關係上甚犯罪者ヲ逮捕シ本國政府而引渡シテ以テ刑罰受處キ其由來ハ自之同犯罪ニ與スル本國一部ノ人民モ懇望ノ都キ佛國某反對運動相勢力反對ル云爾

ハ、安不アシル其明渡ヲ爲シタル關係ノ問題モナシ而後上問矣。宋利盤ナル地
位ニ附ルヘキカ故ニ兇利害關係ヨリ打撃スル事無事也。其引渡ヲ想フ時ト
體ハタル所以ニシテ素ト犯罪人引渡本國家ノ好惡又ハ合意^ノ基キヲ付ムル
ニシテタル性質上何シテ固ニ其放逐上斯ル自體ニ不利益ナシ明渡フ好被上
行ハス又諸約ニ於テモ之ヲ例外區爲ス所據オリ是ニシテ出圖ハ其根柢ニ付
講師、政事犯ト常事犯トノ區別如何其言事、其事要ノ處^ノハモアマサリ道ニ
生徒此政事犯ヲ犯ス目的^ヲ以テ爲シ全滅ト否ト想依存區別スル事小ヲ得
講師、此區別不各國ヲ國法上ニ於テモ一定ノ明劃ナル標準ヲ缺^ム學說並^ニ諸
國之實例上一致シタル所ナキ^ム以テ現今各國ハ其政略其他ニ基キ事件少發
生スル毎無往寔ニ處置^ス爲シ居ル如^ク國際公法上一定ノ標準ナシト雖モ現
今諸國ニ其目的^ヲ如何ニ依リテ決^ムル^ル普通トシタクモ英國ニテ^ム政治上
ノ目的本關係セル犯罪本罪切^ク引渡ツサシ^ム生機^ヲ株^ル尙ほ此點ニ付キ千
八百九十二年萬國國際法協會ノ「シテ^ムダ」^ム會合ニ於ケル決議ハ左^ム如シ
第一 犯罪人引渡不單體濟^ム或專土犯犯罪又ハ認開キ對シテせ^ム右記由ト

諸ノ又ハ^ム引渡^ム中^ニ國^ムハ^ム其^ム一^ムト^ム

第二 犯罪人引渡^ム政事犯ノ犯罪又ハ死刑ト混成罪者^ヲ開闢^ム不^ム刑セラ
レタル犯行ニ付テ^ム之ヲ行^ムス然レ^ムト^ム暗殺、僞證等ノ使用及^ニ性意^ニ然
露ニ出テタル重大ノ殺傷及^ニ其種類ノ企圖並ニ放火爆破決水ニ因ル財產上
ノ加害及^ニ重大ナル盜犯殊ニ兵器ヲ手ニシテ暴虐ノ行爲^ヲ以^フ之ヲ行^ムス
ル者ノ如キ達^ム且^ム普通法上ノ最大ナル犯罪ハ此限ニ在ラ^ム但^ム此^ムハ^ム
第三 反亂又ハ内亂ノ進行中其爭鬭ニ從事シタル黨與ノ一方又ハ他方ニ依
テ^ム其味方ノ利益ノ爲ニ行セタル行爲ニ關シテハ其行爲ノ情態スヘキ野^ム野
説ニシテ戰爭法上禁止^ムタル暴行ナルニ非ナレ^ム之ヲ引渡^スコト不能ハス
又斯ル犯罪者ノ引渡^ム其内亂ノ終了ニ於テノミ其引渡^ス爲スヘキモノトス
第四 前述姑則ノ適用上政事犯ノ犯罪ハ社會全體ノ組織ニ反對シタル犯行
ニシテ特定ノ國家ニ反對シ政府^ム定^ム形體ニ反對スル^ム限^ムナルモアハ
之ヲ包含セストシ「ヨドレンジヌ」^ム政事犯ト常事犯本來區別ニ付キ說^ム爲シテ
曰ク戰時^ニ於テ均シ^ム人ヲ殺傷スル事戰鬪員^ヲ非戰鬪員^ヲ資格ニ依^ムハ

適法所謂之法、不法、或更以特有之名物而稱爲非正統者等、
又ノ區別アセカ如ク同ノ行爲ニ異無基行爲事務亦政事犯ナ否ナハ依リテ其引
波ノ有無ノ肢體ナ所ナレト兵戰閱員ニ於オレヲ賄費毒害其能度待察掠等不
尤惜ナカ野蠻的行爲小國際公法上嚴禁ニ斯所本體立於政事犯と雖、野戰
其他陰險的不殺傷又ハ暴行是爲シタル者、其意惡在政事上ニ關ナシ場合大
體ニ普通ノ犯罪トシテ引波ヲ爲不合法ナリト說キタガの蓋シ至當アビ
見解ナ見ル、此點ニ付テハ未だ一定シテ所ナシト雖モ近世ノ學說ニ據
シニ社會黨又ハ無政府黨ノ如キ一國又當ニ政府ニ反對スルニ此アヨシ
況ニ諸國一般ニ對シ其政事組織大基礎の政事、其根底ニ類似セントスル犯
罪ノ政事上ノ犯罪ト看做ヌ又ハ引波ヲ爲不法モ不正統ス也、上テ前記萬
國國際法協會之決議中第四ニ於該會之空襲之空襲之空襲ノ其他國領地ノ犯罪人引波
條約ニ依リテ之ヲ限定セシム必シマシノ傾向阿爾切齊百萬箇年露羅士立
ホンニアノ國トノ條約書於々皇帝又ハ皇太子對而作犯罪者國政事犯也、
然ニ以フ引波ノ例外中ニ包含スヘカラスト規定シタルハ其一例ナリ

通民法ヲ人並適用スル事本ノ體制華人ナチ生人入射又本国人罪(Offense against the Chinese)

(乙) 古羅馬人(Early Romans)ノ法源及歴史、政治、社會、經濟

羅匈人與西羅匈同盟為私慾都市本人民ニ構成私權人營部及ヒ公權人林都等
事奉東シモ戰敗後其獎勵ヲ失ヒ名譽剝本榮羅匈人(Early Romans)ノ羅馬左翼同權者當
留智價更有名譽人民未シ泰容易ニ公權ト爲ノ事見得來利(Translatio)手續
羅氏羅匈人(Early Romans)トシテ羅馬人之殖民地而成ケタ所モ各ニ之名羅馬ノ成
チテ政治上ノ權利力外結婚權ナ久唯矣商事權互有ノ順人情然地主モ又容易ニ
公民ト爲ノ事ニ則不得名ノ事ニ之類、羅匈ニ連シテ之又言ナシ

此ノ如多非公民主義等泰羅匈失被羅馬治百六十四年リテノ羅法(Roman Law)
日本伊麻利矣國又通於其人民ニ至關スモ羅民之為ニ莫當政事ニ及セ或羅都市威
禁市ノ右都左公國メ地位ニ被カ然ミシ共建ニカ共半制御也羅匈帝至ソ羅馬
帝羅匈人民ヲ通スルノ貴族民則爲之者也平人往昔志加久羅羅公民以外其種種者
公私權ヲ認ノアル故國外人(Babylonians)ノルニ之傳承上ニ於ノル太陽(Regulus)

第三章上 家族權 他權者

家庭(Familia)ト異。相互親族又關係ヲ有スル人斯古成歟久歷無極矣。以於其組織ニ
於ホム時儀及公卿ノ習俗ニ從セ者シキ差異アリ現今歐羅巴蘭國等存モル風氣
ニ夫婦權式シジテ其ヒヨリ生焉ル子孫又父母ノ親族ニ對シ同サル關係有生
ズル事之共反シテ羅馬ノ家族制度ハ所謂族長制度ナシ別子ハ父ノ親族ニ對シ
夫ム親族ノ關係ナ有シ決シテ母ノ親族ニ對シフ之ヲ有セス
一家夫婦活シ之カ首長夫君者之ヲ家父(Materfamiliae)ト呼ヒ各家必ス一人ヲ有ス
家父ハ所謂自權者(Sui iuris)ナルモノニシテ其支配力下ニ立ツ者ヲ他權者(Alii iuris)
謂オ自權者其年齡ハ老幼ニ拘ハズ家父或稱家母(Materfamiliae)ト呼フ
セ父又ハ母ガ威意ハ殆ト至ク其稱號ニ關係ナクシテ單ニ一ム資產川所有者
矣而其權力ノ下ニ他ノ他權者亦有スル得ル無財又謂石モル夫婦又結婚年
齡前且生產前既ニ家父ノ稱ヲ冠スルコトヲ得タリ

他權者ニハ數種ナリ其權力ハ云々奴隸人上ニ主人ノ有スル主人權(Potestas dominio)

(一)子ノ上ニ於ケル父ノ父權(Potestas paternalis)ニ婦人ノ上ニ於夫ノ上ニ於夫ノ父又ニ第三者ノ
有スル手權(Mores)四種與サレタル事ノ自由人上ニ於ケル他ノ自由人ノ權(Res-
ponsuum)是ナリ而シテ第二第三ノ權力ハ唯リ男子ノミ所有スルヲ得ヘテ能ガ女
子セ亦之ヲ有スルヲ得サシテ之威意未可ニ達メテ家父之威意未可ニ達メテ女
奴隸上ニ於ケル主人權然既ニ吾人ノ學ヒタル所ナシノ以テ是ヨリ他ニ三種ヲ
述ヘントス文、其餘ノ者ハ遺失一體く但御マ國王ニモ更復存續せ計セ文書

第一節 家父權(Patris potestate)

當初ニ於ケル父權ノ性質ハ甚タ嚴酷ナシヨリシテ家父ノ其子ノ身上ニ於テ
死生ノ權ヲ有シ之ヲ殴打シ之ヲ賣リ又ヘ之ヲ殺スニトク得クリ家父ノ決斗
所ハ毫モ他ノ味タ冠ルノア許ナシシテ家父ハ恰モ專横者也最高刑官ノ地位
在ヲ隨テ父權ヲ下ニ立ツタル家子(Bilis, filii)ハ他ノ家人無事シテ更モ權力
ヲ有セス家子ノ子孫ノ上ニ於ケル其權及テ其配偶者博士ニ於ケル夫權(Mansus)
等皆家父ノ手中ニ集合キテ又財產ノ問題ニ於テ之處家主ヲ特別尊シテ貴燕足有

無能ニ能ニ安其職得タル所及極多之國事家業父夢貴盡ヲ著加ス由
父權ハ市民法ニ屬シルニ以テ同時代前久民事類似制皮ヲ消スル者謂(アヨン)シ
モ羅馬ノ裁判所不唯復羅馬人至多受權ニ屬ス此類制皮ヲ應用シテ又之謂(アヨン)シ
素父ノ利益及セ公共ノ利益目的マシナ粗成サモ少弱モフ羅馬之官朱里烏爾
ヲ嚴格ナラシメ法律生は於テ家族ヲ集ツテ唯誰もモ少弱者故シ族長付與
スルニ無上ノ權力ヲ以テシ他日國家粗職ミ於テ造ツル事等威權生服シルニ謂レ
シメ共和ノ嚴肅ナル規律ヲ選奉セシメントスルニ在リ此制度ハ實ニ羅馬人力
堅忍ノ性質ヲ形成シ遂ニ羅馬ノ盛大ヲ致シタル原因ノ主タルモノナリ

此ノ如ク家父ハ私祭ノ首トシ家族一切ノ財產ヲ包括シテ其所有權ヲ握リ又家
族ノ判官タリ元來家父權之組織ハ更ニ家子ヲ標識ヲ以テ算中ニ置カシムアリ以
テ第ニニ家子ハ繼母成年ヲ超エ加之老年ニ至ルモ家父ニシテ存在セシカ父權
ノ解約ヲ既シテ自ラ家父ト爲リ或ハ別ニ財產ヲ作リ之ヲ管理スルコト體ハシ
唯父權ヲ終結ヲ告クハシム通常父ノ死亡有事メ土葬儀ニハ寢權ハ決シテ葬入ノ
之ヲ執ルヲ許ナシ父ノ死亡後或ハ無能力ニ陷タル後半生モ母ニ轉歸スルコ
トナシ第三ニ私物ヲ用家族ヲ頂生母權セシ最高男爵ニ變權ヲ執シカ故ニ祖父
曾祖父ニシテ家父タルトキハ孫立孫等皆其下ニ屬スルモノトス
家父權ノ嚴格ナル此ヲ如シト雖モ家子母地位ハ奴隸ニ異ナリ生人ニ屬スルモ
ノニ非ス法律上認シテ大ト爲多而モ自古人生來テ自由入トシ公民トシニ基
ニ就クヲ得又一家ノ内ニ在リテ父ノ父ノ手中ニ在リ十二銅版法ハ子ニシテ
ハ子ノ地位ヲ以テ賤劣ナシシ國ルニ非ヌ唯茅ヲシテ父ト同一體ト爲テシ
セシモテナリハ子ノ權利ハ父ハ黄帝々世祖々武王也之類也之類也
原則ハ右ノ如シト雖モ生殺與奪ノ權ハ父ノ手中ニ在リ十二銅版法ハ子ニシテ
三度賣タルルトキ父權之消滅與ルモシテ爲シタルヲ以テ父權之滥用ニ加ヘ
タル制限タリシカ實際ニ於テノ風俗ニ嚴正ナル事又モシダ下ル(Gentile)官ノ
嚴密ナム監督トニ由リ著大アル弊失ヲ感ナリシセ世代ヲ降ルニ隨古此父權
ノ規正者タル兩者ハ消失シ遂ニ法美ヲ以テ父權之削減セテアルニアラ參ル五
レヲハシムハシム之類樂子ニシテハシムハシム之類樂子ニシテハシムハシム之類樂子ニシテ
教科時代ニ至リ家子ニ對スル生殺與奪ノ權ハ斯夕既矣シレ夢遠ニ至テ消失シ

ンヌタントン帝ニ至リ勅令ヲ發テ其子ヲ繼ス者、其父ヲ繼スト等を半異ニ以
テ論セラルヘク將來子ニ罪アルトキハ一般ノ法ニ從ヒ裁判官ニ付與スヘキコ
トヲ決セリ。ジニスチニアン帝ニ至リ棄テスレタル子惟直キ自權者ト爲リ又父
ニ由リ賣淫サレタル女々父權ヨリ脫スルコトヲ決セリ然レ夫モ子ノ賣淫アリ
ハ教科時代ニハ猶モ存在セシモダラタムオアン帝ハ之ヲ禁シヨシスタンダ
帝モ亦同シタ之ヲ禁シ唯兩親ノ極メテ貧困ナルモキハ初生兒無限集之ヲ賣ル
コトヲ許セリ。此謂モ出嫁財產、謂ハシム、年中ニ集ミ十二歲還者モキハ
財產ニ關シテハ子ノ得ル所ノモノハ家父ノ資產ヲ増加シ又契約ニ因リテ家父
ニ權利ヲ得セシム所モ契約ニ因リテ家父ニ義務ヲ負ハシタル財產ト能ハス實聲
ニ於テ家父ハ子ノ努力ニ因リ得タ度モハ子ヲ管理享有スルニ任セ他日資產
ヲ相続スルノ日ニ當リ之ヲ管理スルノ趣歩ヲ作ラシムタルモ家父ハ又隨意無
之ヲ制奪スルヲ權ヲ有セリ此家子ノ利權也之ヲ名カズ、然キニテナシ(Requiritur)
余謂フニシカニ家父ハ子ノ所有テ無文無證者其可ニ置キシムトモ也
家子ハ奴隸ノ地位ニ似テアリ而モ奴隸ナ契約汗因リ民法上ノ義務ヲ生スルア

得ス單處自然義務ヲ負フ以ミ老母反謀主家子ハ自ヲ民法上ノ義務ヲ負フ又犯
罪在リテ再家子、奴隸共ニ民法上ノ義務ヲ生セシム成リ得其他家子ハ威制限
内ニ於テ原告又ハ被告ト外テ訴訟ヲ爲ス又得ルモ奴隸ハ人格ナキヲ以テ之ヲ
得失金ハ日暮及夜更に亦之帶メ、通達交宦之際亦不外乎家業、富貴、才識、官職等言
家父權者教科時代ニ至リテハ著シタ減縮セラレ財產ニ關シテモ家子貯金(Pecunia
蓄積)管理發達スルニ隨ヒ益、其然ルヲ見ル此Pecuniaニ數種アガ家父カ一部ノ
資產ヲ割キテ子ニ管理セシム之ヨリ増殖シ得タル財產ニ又與者ノ權ヲ有候タ
リ之ヲベキユリオム、プロブニタシオム(Pecunium profectum)ト名シ其他ノ財產ニ
シテ家子カ真正ノ所有權ヲ享受スルモノニ數種アリ(Propter pecuniam)其間ノ強弱ニ因リ出
(一)軍功貯金(Pecunium ostendens)此題文諸事例更詳々之、三國志文獻卷之四、魏書、漢書、晉書等
是レ特ニ軍人ノ爲テニ創立セシム法律ニ起源セム者也シ夫家父ノ子ガ得タル
財產上ニ有セル權力ヲ向互フニ打撃ヲ加ヘ將來家子人貯金ナシテ分立セシム
タル原因ナリ黑馬帝アスクヌトスル黒馬分爭以來自己失鹿下ニ屬遂爭闘セシ者
ヲ賞セシムカ爲テ家子ニシテ率復又於未得タ及一切ノ財產ヲ以テPecunium

ストリート爲シ然体上及ト事實上第父有無大資産又獨立セ以テ家子不特有財産某別家子無遺言ニ因ヌモ之無處分不以本權利與子タリ此新規則シ其後數代才皇帝又之ヲ確認シ遂テ Regulum ostreense へ家子ノ特別ナガ資産レシテ家子ナニニ對シ家父ノ權利ヲ事有不所ニ至ル故ニ家子ベ其 Regulum ostreense 一部第其公海ヲ讓與シ此財產ヲ以テ義務ヲ契約シニ關スル訴訟ハ獨立シテ之ヲ爲不コトヲ得タリ唯家子ノ死スル時 Regulum ostreense ニ關シ遺言ニ因リ處分ナラシキ家父ハ己カ放任ヤテ營理シシメタル時金合如意回収シカドテスチギアン番ハ更ニ此慣習ヲ變シ家子ノ無遺言ナシタ死後然ルトキト雖モ軍功貯金ハ真正メ相續トシテ家子ノ相續人ニ移轉スル事トヲ決シタリ一端ヘ

(二) 父輩軍功貯金 (Pecunia quasi gestuaria) 此貯金ハ「コンスタンタン帝ノ創メテ定メタルモノニシテ宮廷ニ於テ官職ヲ有シタガ家子カ其後諸ヨリ得タル貯金也」謂ニ其後辯護士僧侶其他雜々官皮ナシテ得タル財產也以次中モ加シタリ家子カ此貯金上モ於ケル權利前ノ軍功貯金モ等シテ以テ軍功貯金 (Pecunia quasi gestuaria) 之名アリ又前

(三) 去火キ而男オホアボクシテ御オヒ (Pecunia indecessum) 于ノ母ノ被服ノ被ヘ此貯金ハ其由來之何故ル又問カ不思之二種之貯金ニ屬ニ主體ニ一切ノ財產ニシテ唯ノ軍人官吏辯護士等ノモ夫婦又嫁女タガ者ハ男女ノ分タリ之ノ有夫ノ夫得此財產ノ所有權ハ家子ニ属スルモ遺言無因ニ處分スル又得ス家父ノ尚貯金ヲ構成スル財產ヲ管理シ收實權ヲ有ス故夫此貯金ニ於テハ以上二種ノ貯金ニ比シテノ家子ノ享有スル權利ハ泰少ナリ其濟説セテ文籍ナハ次文を以テハ五

由テスルモテ
第一項 家父權ノ起源 (當代)

ソノイハ空氣自由 (空氣自由) 未央 (未央) 権利 (権利) 入賞 (入賞) 賦役 (賦役) 本邦 (本邦) 郡縣 (郡縣) 八鄉 (八鄉)
次文意解 (次文意解) 第一 正當婚姻 (正當婚姻) Custos (Custos) 未央 (未央) 本邦 (本邦) 未央 (未央)
父權ノ構成 (父權ノ構成) 婚馬ニ於タル家庭制度ノ基礎ナガ是ト既テ上文説タカ如シ而レ
父權ノ發生ノア重ナル泉源ノ結婚ニ在リ古昔時代ニ在リテ之結婚ノ男女兩
性ノ生存上ノ分離スヘカラシル共同體ノ成立シ結合ナリモデスラン (Modestus)
日本ノ下セシ定義ニ依ゲニ結婚ハ異性ノ二人ヨリ成セ命ニキシタ配偶者相モ
ハ會社ノ一種ヲ組成シ女ハ男ノ有セル社會上ノ地位稱號ヲ分マク其住居ヲ取

ノ又被祭ニ分與者是ヲ以テ推セバ所謂正當結婚ノ謂民法ニシテ羅馬法之能タル他ノ男女ノ結合ノ市民法ニ於ケル結果ヲ生ヌムナト得ス唯ア此正當婚姻ヲ古昔ニ於テ羅馬人ノ結婚ニ先シ結納(ponens)ヲ約スルヲ常トセリ是ニ非寒ノ夫婦タル男女及ヒ其家父ノ承諾ヲ以テ結婚ヲ爲スニキトヲ約スノ契約ニシテ通常口頭ヲ以テ又約束ノ方式ニ從フコトアリ之ヲ遵守スルヲ常トスルトハ全ク自由ニシテ決シテ強制的ニ結納契約ノ實行ヲ許サヌ唯正當ノ理由ナクシテ之ヲ破棄スルトキハ賄價ニ修ムヲ常トス

當初ニ於テハ結婚ハ夫權(King)ナル權力ヲ相聯繫シテ離ルヘカラナリシハ正當結婚也(正當結婚)於テハ女ハ必ス他ノ權力下に落ツバカ爲メナリ若シ夫ニシテ自權者タラハ其夫權ノ下ニ落チ若ヒ他權者ナシム其尊屬親ニシテ家続タル者ノ權下ニ落ツルモノナリ此夫權ノ結果トシテ一方ニハ女ハ夫ノ家ニ入ル家子(女)ハ夫權也(夫權)爲ル家子セ亦他方ニ同其固有ノ權ニ連繫スル宗教上及ヒ或法上ノ關係ハ全ク破棄タル是ヨリ女ハ己ノ生る所ノ兒子ト恰モ姉妹ノ如ク

夫異母妻父夫權之下ニ立テ其固有ノ財產ハ夫權ヲ有スル者ニ属シ以後自ラ博取タル財物ヲ失ツムハシテ相處ニ相處ニ誠眞ニシテ其衣服財物ニ至シテ其家業ニ至シテ其相繼權ヲ夫モ其新親族等於テ同一ノ權利ヲ得ス(夫權)ノ事也(夫權)中華ニシテ三齊後漢等ノ國に傳スル夫權ヲ得セシタル結婚ノ方法也三アテ曰タ「コムヌテラブシオ」(Confarrebit)曰「コエムズシオ」(Complito)曰タ「ユジス」(Usus)是ナリ

(一)「コムヌテラブシオ」(Confarrebit)也(夫權)ノ有カ無カ之有無也夫權ハ貴族間坐耳モ應用テレ支那モソニシテ十人又立證人ノ前上於テ大僧官及ビラニビラトニ(譯ノ名)ノ僧官カ執行セル莊嚴ナル儀式ニシテ儀式ニ從ヒル語句ア東女ハ西ノ生活ヲ以テ夫ノ生活ニ配合セル比喩性也テ手ヨ小麥ヲ以テ作ヒル麵包ノ一片ヲ持ツモアドスハナキテ餘長人ハ指揮を握テ此謂羅丈(ムジテル)古希(マヌス)Mensisキリオニニヨ(Quintus)僧官タラシト欲スル者ハ此コムヌアレブシオの式ニ從ヒテ結婚セル者ノ子ニ非ナレハ之ニ任スルコト甚タ稀少ト爲リガ

本ニミ「ウエーブン法」イ時代、夫婦全然離別断絶云至リ、妻服奉公職セイ甚及御守才體及女此方法ハ女ヲ以之夫ニ賣ルノ儀式サニシテ「マヌケ」(Manuscript)モ依リ夫婦ヲ生セ制外モ、妻夫タクレ女モシテ自權者タルトキヘ後見人ノ許可ヲ要シ他權者ナルトキア家父人許可ヲ經テテヘタラ不處アリ終バシ。是時特別オル語辭アリ婦セ直チニ夫ノ權下ニ移ル。世人ナガレ其時御存セム。茲猶大、諸友セム夫婦友之當也。

此方法ハ當初和平民ニ間有カル方法ニシテ後モナ廣々應用アビガイスノ時代ニ上ノ式ニ代リ獨リ存在セルカ如シ。

(三) 「ユジヨス」(Ugus) 即ち「ウエーブン」(Weban)法也。
「ユジヨス」とハ使用ノ義セキ夫ニ一歳年時日間女ヲ使用スルニ因リ夫婦ヲ得ルモ亦大々然解トセ。此「ユジヨス」ノ經過中婦ニシテ三夜外宿スルニ因リ得タル所人努力ミ失セ夫婦オシテ成就スルヲ妨タムモノ也リ故ニ此方法ハ一年間握有セ因リ所有權ヲ得セシメタル動産ノ时效ヲ適用シタルモノナリ此方法ハ十二鋼版法モ載ス所オルモ教科時代ニム已ニ消失セリ又其後ニ國外貿易發達

雜

報

○最近判例要旨彙報

四六 民法施行前ニ於ケル私生子ノ認知 民法施行前ニ於ケル私生子ノ親子關係ニ付キ適用スヘキ法則明治六年第二十一號布告ニ依レハ私生子ハ其出生ニ關係アル男子ヨリ認知セラレ其子ト爲ルコトアルヘシト雖モ其男子フシテ親子關係アリトノ事實ヲ認知セシムル權利ヲ有セス大審院明治三十五年(大正五年)五月十九日判決私生兒認知請求事件明治三十六年二月十日第一民事裁判決

四七 離縁訴訟ノ當事者 民法第八百六十六條ハ主トシテ離縁ノ事由ヲ定メタル規定ナルモ養親タル夫婦ハ離縁ノ訴訟ニ付テハ各直接利害關係者ニシテ之ニ對スル判決ハ合一ニノミ確定スヘキ場合ナシヲ以テ養親タル夫婦共ニ存スルトキハ俱ニ訴訟當事者ト爲ルヘキコトヲモ併セテ規定シタルモノト解釋セナルヘカラス同明治三十五年六月二十四日第一民事裁判決

四八 民法施行前ニ於ケル嫡孫承祖ノ法則 民法施行前ニ於テ推定家督相

續人カ子女ヲ遺シテ死亡シタルトキハ其子女ハ嫡孫承祖ノ慣習法ニ從を直テ
ニ祖父母ノ推定家督相續人タル資格ヲ有セシカ故ニ嫡孫ヲ排シ他人ヲ以テ相
續セシムルニハ廢嫡ノ手續ヲ要セシト雖モ祖母カ子ノ死財相續ヲ爲シタルト
キハ所謂嫡孫承祖ノ法則ヲ適用スヘキ場合ニ非ツレハ縱令嫡孫アルモ養子ヲ
シテ相續セシムルコトヲ得ルモフトス(同明治三十五年六月二日第十六號) 及地所取戻請求事件付明治三十六年一月十五日第)

四九 賽打 帳薄ヲ取回サンカ爲メ人ニ組付キタル所爲ハ人ノ身體ニ對シ
暴行ヲ加ヘタルモノニシテ刑法ニ所謂賽打ノ所爲ナフ(同明治三十五年八月十一日第十二號) 及地所取戻請求事件付明治三十六年一月十五日第)

五十 一團ノ物件ニ對スル數箇ノ旨認定^{シテ}冒認罪ハ他人ノ所有物ヲ自己ソ
所有ナリトシテ賣買、交換ヲ爲スニ因リテ成立スルモノトス體ヲ犯人カ他人ノ
所有ニ屬スル或一團ノ物件ヲ冒認シテ販賣又ハ交換セント發意シ其意思ヲ實
行スル爲メ數度ニ賣買、交換ヲ爲シタル場合ト雖モ其賣買交換ニシテ獨立ノ行
爲ナル以上ハ箇箇別別ニ犯罪ヲ構成ス(同明治三十五年二月二十七日第二刑事部宣告)

告部宣

五一 公廷設備ノ箱ト被告人ノ自由 公廷ニ設備セル箱ハ公廷取締ノ爲メ
被告人ニ一定ノ席ヲ與ヘタルモナリトス爾テ被告人ノ身體ヲ拘束シタル地
ノニ非(同明治三十五年十二月二十六日第一刑事部宣告)

五二 複寫ノ性質 複寫ベ文字ヲ紙上ニ表出スルノ一方法ニシテ文字ヲ手
記スルモノナレハ筆記ト全ク其作用ヲ同シウス隨ナテ此方法ニ依リテ作成シタ
ル書類ハ筆記ヲ爲シタル書類ト其效力同一ナリ(同明治三十五年二月八日第二刑事部宣告)

五三 官署印ノ押捺ナキ豫審調書ノ效力 豫審調書ニ特ニ出張先ニ保ル
以テ所屬官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハストノ記載ナキモ出張先ノ記載アリテ
出張先ニ保ルコト明カナル以上ハ所屬官署ノ印ノ押捺ナシト雖モ該調書ベ有
效ナリ(同明治三十五年十二月十九日第一刑事部宣告)

五四 執達吏ノ代理人ノ作成シタル調書ノ性質 文書有體動産ノ差押ヲ爲シ
調書ヲ作成スルハ執達吏ノ職務ニシテ執達吏ハ右等ノ職務ヲ自己ノ責任ヲ以

ヲ代理ノ資格ヲ有スル者ニ委任スルコトヲ得(執達吏規則第一一條隨テ其代理人カ作成シタル調書ハ執達吏カ自ラ作成シタル文書ト同シク官文文書ナリ)〔同明治三十五年(大正)十二月二十八日第ニ判事部宣告〕

五五 刑事訴訟法第一百三十一條第三項末段ノ規定ト第二十一條ノ二ノ規定トノ關係 刑事訴訟法第一百三十一條第三項末段ハ其總則タル法條(刑事訴訟法

第二一條ノ二)ノ改正アリタル爲メ自然改廢ニ歸シタルモノトス隨テ證人訊問調書ニハ證人署名シ能ハツルニ由リ書記代署シタル旨ノ附記アル以上ハ其捺印ヲ缺キタル事由ノ記載ヲ要スベキモノニ非ス(同明治三十五年(大正)十二月二十六日)〔同明治三十五年(大正)十二月二十六日〕

○擔任講師ノ變更 高等科行政法擔任講師清水學士及ヒ民法擔任講師遠藤學士ハ公務多忙ノ爲メ辭任セラレタルニ由リ民法ハ板倉學士之ヲ擔任スルコトト爲リ行政法ハ新ニ文部省參事官法學士松浦鐵次郎氏ヲ聘シテ其擔任ヲ聽記セリ

和佛法律學校會計局御中

(注) 案外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切抜キ居所、氏名及爲替書號、金額、並ニ月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

替書號()

一金

但三十六年度高等科 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年
月 日

和佛法律學校會計局御中

納付書

替書號()

一金

但三十六年度高等科 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年
月 日

和佛法律學校會計局御中

特別科講義錄

第一號

四月一日發行

明治三十六年三月廿六日印刷

(定價) 五拾五錢

○府縣制

法學士 松浦篤次郎

○市町村制

法學士 松浦篤次郎

○人事訴訟手續法

法學士 松岡義正

○戸籍法

法學士 島田鍾吉

○供託法

法學士 坂田通二郎

尚本課業管轄法(松浦學士)○許、意

志、商標法(杉本學士)○非盜事件手續法(橋田學

士)○不動產登記法(船木學士)○競賣法(吾孫子

學士)○租稅法(若瀬學士)○著作權法(水野博

士)○公證人規則(堀岡學士)○執達吏規則(仁井

田博士)○馬載ス○毎月一回發行○月謝金十五

錢

三月 和佛法律學校

發行所

司法省

和佛法律學校

(電算番町百七十四番)

(明治二十二年十二月九日內務省許可)

(明治三十五年十一月四日第三回總會開會可 每月廿四三日五
十六日廿八日廿九日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日開會)

東京市芝區久保町十一番地

印製者 小宮山信智

發行者 萩原敬之

東京市芝區久保町十一番地